

京三中・山城高同窓会 会誌

双ヶ丘



目次

巻頭言

東日本大震災と往時雑感

空の散歩

長尾伴七先生の思い出

過ぎ去りし記憶は大切な

森先生傘寿の祝辞

健康に関するラッキーな出来事

ザビーネさん宅を訪問しました

友よ、また会おう

会員からのたより

各期・各会からの報告

防人の詩

表紙コメント

作者 学校長 北澤 和夫

戒驕戒躁（かいきょうかいそう）

おご驕ることなく騒ぐことなく、一歩ずつ堅実にやるように、
と自分自身をいつも戒めています。

卷 頭 言

陽 明 学



山 田 方 谷



中 江 藤 樹

格物・致知・正心・誠意・
修身・齊家・治国・平天下

儒教においては朱子学と陽明学が併存する。あたかも東大と京大のようなものである。幕府は江戸昌平坂に御用学問所をつくり朱子学を専らとした。これが東大の源流である。一方京都では西園寺公望により、朝に対する野という発想を根拠に京大が誕生した。二元はここを濫觴とする。一中・二中を作った先人はこれで文武両道なれりとしたが、わが三中は五中を前身とし心を磨く学校とした。洛北・鳥羽は鉄筋の校舎なのに山城は木造の校舎だった。



同窓会長 森貞男先生の傘寿を祝う会

祝 辞

14回 一村 昭雄

ご紹介に預かりました二村です。僭越ではございますが、一言お祝いをのべさせていただきます。

森先生、本日はめでたく傘寿を迎えられ、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

高校時代は森先生の授業を受けたことはありませんが、サッカーという教科書を使って人間育成をしていただき、又基本がいかにかに大事かということを教えていただきました。

森先生は、いつも「ちゃんと止めて、ちゃんと蹴ったら勝てるんや」と言っておられました。ですから毎日の練習は 人 組で「止めては蹴る、止めては蹴る」の繰り返しでした。しかし、この「ちゃんと止めて、ちゃんと蹴る」という、とても単純で簡単なことのように思われますが、試合になれば、相手選手に邪魔されたり、自分も動く、味方の選手も動いている状況で、浮いたボール、大きくバウンドしたボールへの対応は大変難しくなるのです。でも毎日の基本練習のお蔭で、様々な状況にも対応できる力がついたのです。森先生の指導はあまり細かいことを言われませんでした。ポイントとなることを、一言だけ言われます。後は自分で考えなさいと言うことです。

このようなご指導のお蔭で更にレベルの高いサッカーの扉を つ つ開けて行く事が出来、近



畿大会優勝、熊本国体優勝、高校選手権準優勝という結果が残せました。私が全日本ユース代表、全日本代表に選ばれたことも高校時代に徹底的に基本をご指導頂いた事と、夢を持つことの大切さ、最後まで諦めないで辛抱する事を教えて頂いたお蔭です。

私だけでなく、森先生に指導を受けた選手は、皆様も御存知のように、世界的プレーヤーの「釜本邦茂氏」、Jリーガーから後にガンバ大阪のコーチになった「松山吉之くん」や、現在、ブータン王国の代表チームの監督をしている「松山博明くん」を始め、たくさんのお教え子が、素晴らしい選手・コーチになり日本のサッカー界で活躍をしております。

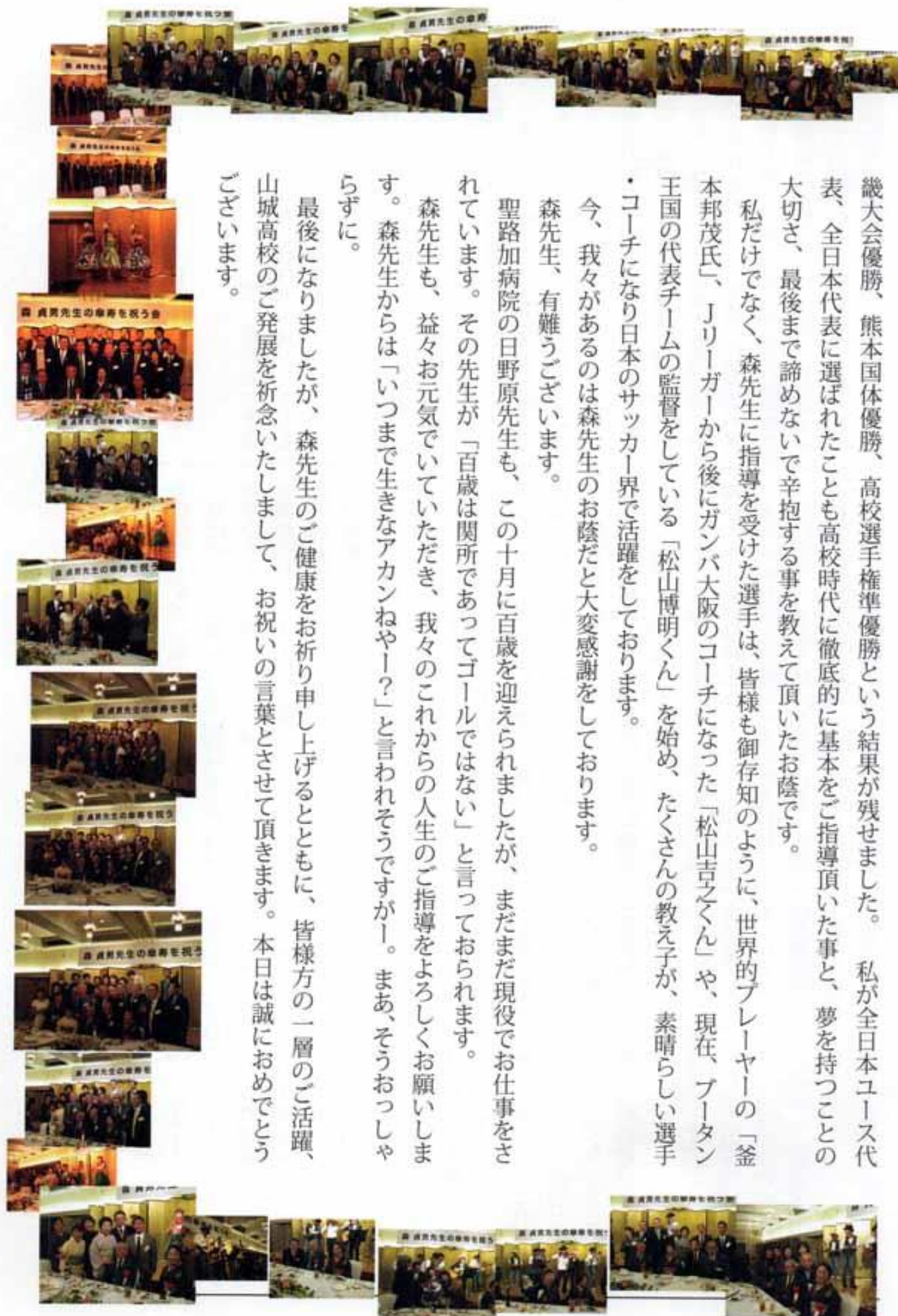
今、我々があるのは森先生のお蔭だと大変感謝をしております。

森先生、有難うございます。

聖路加病院の日野原先生も、この十月に百歳を迎えられましたが、まだまだ現役でお仕事をされています。その先生が「百歳は関所であってゴールではない」と言っておられます。

森先生も、益々お元気でいていただき、我々のこれからの人生のご指導をよろしくお願いいたします。森先生からは「いつまで生きなアカンねやー？」と言われそうですが、まあ、そうおっしゃらずに。

最後になりましたが、森先生のご健康をお祈り申し上げるとともに、皆様方の一層のご活躍、山城高校のご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



東日本大震災と往時雜感

三十六回 高須 壽一

「双ヶ丘」第五号に「続 楊貴妃」を書き最後に、川島芳子は日本へ逃がしたとも言われている。今ごろ日本のどこかでひっそり生きているのかも知れない。と書いたが、昨年の日記を見ていたら、10月20日の記入でS A P I O（小学館発行）の記事で「川島芳子は生きていた」の見出しで、方麗蓉の名で吉林省にいて79年歿とあった。と書いていた。昔のことは 記憶しているが、最近のことはすぐ忘れるなあと反省。

この度の震災は、三陸沖M9の過去最大の地震と大津波に加え、福島原発の放射線もれ等もあり、岩手・宮城・福島の海岸沿いは、がれきの山で、死者・行方不明者2万人以上の上、原発近くの住民は避難させられ帰るめども立たず、更に少し遠くの稲わらも汚染され、それを食べた牛の肉も問題になり、福島牛のふんを堆肥に利用し

た土地も汚染されたとのこと。津波は遠く離れたハワイへも3mの高さで押し寄せ、南極にも達し氷山の棚氷を割り新たに冰山を作るなどすごい威力を見せた。

私は昭和22年戦後の混乱期に京工専機械科卒なるも、就職口はほとんどなかったが、卒業の翌日には大阪の工場へ。1年後に京都の他社へ、ここで8年。昭和31年、現在の三菱重工工業名古屋航空宇宙システム製作所（以下名航という）に入社。小牧工場品質管理課勤務で、半年前から始まっていた米軍F86F戦闘機の修理の最終の地上運輸から試験飛行までの検査を担当。やがて防衛庁向けの国産F86Fの胴体・翼が大江工場より搬入され、これの最終の試験飛行も見て引き渡した。

更にその後、米軍・防衛庁の各種の機体を見、先輩を抜き第一人者となっていたので、サービス部の基地訪問には頼まれて九州から東北まで随行した。

多分昭和35年（当時の写真に年月日が入らないので）と思うが、東北の松島・八戸の航空自衛隊基地訪問時、仙台城址で伊達政宗像や土井晩翠作詞の荒城の月の歌碑等

見、松島基地訪問後、船で松島湾を遊覧、芭蕉も見た絶景、松の生い繁げる島々を眺め五大堂に上陸。瑞巖寺を見てその夜は石巻泊まり。皆との夕食後1人で街を歩き、一軒のクラブらしいのに入店。客は誰もいなく私一人に五人の女性が集まり話をしたり、齋太郎節（又は大漁唄い込み）を一緒に歌ったりして楽しんだ。

一、松島のサーヨー瑞巖寺ほどの

（ア コリヤコリヤ） 寺もないトエー

アレハエエ エトソーリヤ 大漁だエー

二、石巻サーヨーその名も高い

（ア コリヤコリヤ） 日和山トエー

あまり気分が良いので「明日これたら又くる」と言ったら、「あなたは明日は遠くへ行く人。私達のこととは、心配しなくてよい」と言われ心で赤面。当時の親切な女性達の無事を祈っている。

8月12日の新聞報道によると、三陸沖42自治体被災状況で、宮城県石巻市が死者3153人、行方不明者800人で、次に多い岩手県陸前高田市の死者1546人、行方不明者576人のほば倍の多さ。

岩手・宮城・福島の3県で、がれきの量約

2300万トで、石巻だけで540万トで106年分とか。内1100万トは仮置き場へ搬入されている由だが、津波をかぶった塩分の木材がれきは、既設のフィルタで毒性を持つダイオキシンは除去可能と発表されるも、放射能汚染がれきは処理方法まだ未定の由。

石巻一泊後、平泉にある毛越寺の極楽庭園、中尊寺の金色堂等、藤原三代の栄華の跡を見るも、高台より平地を眺めると、蛇行して流れる北上川に並行して東北本線のS1列車が白煙をあげ走る光景は東北らしいと感じた。この平泉が今年6月22日世界文化遺産に指定され、さもありなんと思った。その夜は厳美溪に宿をとり、3月末にふさわしい雪の積もった両岸や、川の中のころがっている大きな石を美しいと眺めた。

翌朝八戸へ行くも、夜はマイナス10度で耳はちぎれんばかり痛く頭痛がした。一泊後八戸基地に行き、帰りに海猫（かもめ科の海鳥）の島を見る。鳥が島一面を、真っ白に覆っていた。帰りは宮沢賢治ゆかりの花巻温泉に泊まり、ゆったりした気分になった。

名航で、各種ジェット機を見ること10年、ヘリコプタを6年、輸送機を2年、計18年

後の昭和49年5月、社長命令で全社の品質保証（Quality Assurance）……以下QAという……を推進せよとの事で、私がリーダーとして他の三人と共に、当時、丸の内にあった本社の技術本部（以下技本という）生産技術部へ転勤。すぐに日本科学技術連盟の部長品質管理講座を一月受講。各方面の識者より品質管理（Quality Control……QCという）の進め方、統計的手法、信頼性工学等教わると同時に、当時のトヨタやコマツ等の全員参加のTQC（TはTotal）実施で、問題点を見付けて改善している状況を知る。

事業部・事業所にQA推進幹事を置き、重点製品を指定させ、それぞれの製品の問題点を明確にさせて解決のスケジュールを定めさせ、QA診断の名目で、大は船舶から小はエアコンに至るまで見てきた。またQA研究会で四つの分科会を設け、それぞれの製品の性能・寿命等調べさせた。製品には原子力装置もあった。

日立・東芝の原子力装置は、米国GE社と提携した沸騰水炉で、福島装置は東芝製のこのタイプの由。

三菱重工は、米WH社と提携した加圧水炉

で、簡単に違いを言うと、沸騰水炉は炉で発生した水蒸気をそのまま蒸気タービンに送るが、加圧水炉型は、軽水を用い高い圧力で沸騰を抑え、この蒸気を熱交換機でタービンに送る蒸気を発生する配管に伝えるので、タービンは汚染されない。しかし熱交換機内の配管に漏れがあるといけないので、この熱交換機を重点部品としていた。

東京転勤で、東京都澁谷より多摩川を越え西へ走る東急田園都市線沿線の借り上げ社宅住まいで、環境が良いので、退職後は更に西の横浜市緑区（横浜市の北西部）の5階建てマンションの3階に住み、西に丹沢山系が、山の間に富士山も見える。

3月11日、当地も相当揺れたが、私の住まいは被害なきも、5階の人は「立っているものは皆倒れた」と言っていた。その後の発表で当地は震度5弱と判明。

放射線量は、東京新宿区や川崎市（海側）に比べ、横浜（海側）は半分で、東北・関東では一番低い。

地震後三陸沖を中心に、北海道から静岡沖、内陸部では信越・北長野と余震あり、当地も、たまに震度2程度揺れる。毎日のように揺

れる宮城・福島・茨城等の住民は大変だと同情する。

風評は深刻で、輸出の優等生リンゴ八割減。外国人観光客も激減。草津温泉も客一割に減少。福島と群馬にまたがる尾瀬も放射能のため7月に来た人激減。この一帯は東電が多くの土地を持つが、このままでは木道の木の交換も不能の由。尾瀬へは過去3回行き、8月のニッコウキスゲや三条の滝の大瀑布を見、燧ヶ岳登山、至仏山ではエーデルワイスも発見した。

震災遺児2千人以上。両親とも失った孤児2百人余。韓国の女子フィギュアスケート選手キムヨナの金妍児さんは昨年五輪で優勝し、それまでも優勝の常連だったが、今年4月の世界選手権では安藤美姫が優勝し彼女は2位となったが、賞金2万7千ドル(当時のレートで約220万円)を、日本で被災した子供たちを支援するためユニセフに寄附すると発表。かつて日本に併合され創氏改名まで強いられ恨み骨髄のはずなのに、なんと優しい人かと感心。2018年冬期オリンピックの韓国招致に彼女が活躍し平昌に決定と7月7日発表され拍手を送った。

韓国の財閥三星企業より平成4年(日本铸件協会在籍中)品質展開の講義を依頼され現地へ行き実施した。

なでしこジャパンがドイツフランクフルトのW杯大会で優勝し感動と激励を与えてくれ、8月18日国民栄誉賞を受賞。今後の活動を切に祈る。

今年ベルリンの壁が作られて50年目。昭和50年ごろ、メイド・イン・ジャパン↓安からう悪かうで、メイド・イン・ジャーマニやスイツツアランド↓高品質で知られ、その秘密を探る21日間のツアーに昭和51年9月に参加を命じられ、ベルリンでは東西の壁の検問所を通り東ベルリンへ行き、森鴎外の下宿先もバスの中より見た。昨年10月BS hiで舞姫誕生百二十周年・森鴎外の恋人と題し放映され録画したが、鴎外の帰国後すぐに後を追う日本へきた女性との悲恋に涙が出る。

ツアーの後は更に活動を強化し、成果が出ると同時に収益にも大きく寄与した。昭和55年ごろジャパン・アズ・ナンパーワンとまで言われた。昭和57年退職後も技本の依頼で重工嘱託兼務で関連会社へ勤務し、三

菱重工技報(論文集)の編集・発行業務を移管され建て直した。

10年前までODA(政府開発援助)拠出金は日本が世界一で、今回の震災で世界の多くの国が援助してくれた要因と思う。

東芝が約一年前にWH社を買収し、重工はフランスのアレバ社(加圧水炉)と提携した。フランスは原発推進、ドイツは脱原発。我々老兵は消えゆくのみゆえ、後は若者に託そう。



オーストラリア戦に勝利して喜ぶなでしこのチーム

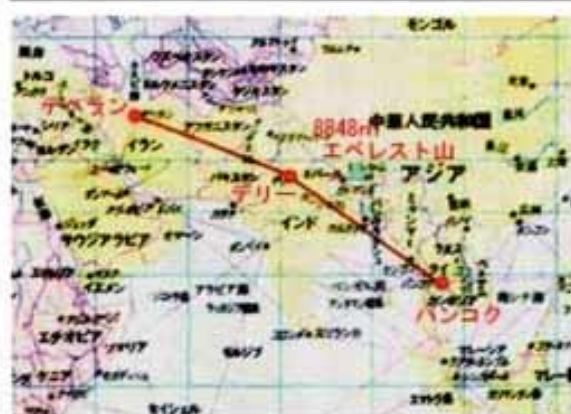
空の散歩（続）

4回 吉田 和夫

◆南周りヨーロッパ・ハ路線 バンコク→テヘラン

◎航路事情

この航路の前半、特にバンコク→デリーは6月から7月にかけて*ITCZ（熱帯収束帯）が北上し、タイ、ミャンマー国境からカルカッタにかけて巨大な積乱雲が発生する。雲頂12000メートルにも達する鉄床状の入道雲が航路上に沿って林立していたり、行く手を遮る場合もある。しば



南ヨーロッパ路線

しば稲妻が鋭い光彩を放つと雲の全貌が薄暮のなかに浮かび上がる。雲間放電などの妨害（空

電）により位置通報を含む空地通信が極めて困難に陥ることがよくある。

通信を担当する副操縦士が困惑したり、無指向性無線標識などの地上無線航法援助施設や空港保安施設の劣悪さも重なり、誰もが尻り込みする路線のワースト・ワンである。

ようやくインド東部のチヨタ・ナーグフル高原を越えたあたりから通信状態も改善され、満天の星影の下大気も安定し、真つ暗闇の地上に時折小さな集落の灯火を見つけたときはほつと人の温もりを感じたものである。

一方冬季は、ヒマラヤ山脈南部を東進する偏西風（ジェット気流）域に遭遇すると乗客サービスが出来ないほどの不快な「揺れ」がつづいたり、向い風で遅れることが時にはあるが、復路テヘラン→バンコクは日出後にデリーを離陸できたのでやがて左方に壮大なヒマラヤ山脈が青空の色のなかに連なり、氷に覆われた秀峰エベレストが眺められた。

寄港地デリーで乗り込んでくる乗客の一部は、粗末な衣服をまとい、疲労と不安のまじった表情をしている。借金して初めて飛行機に乗ったという地方からの出稼ぎ人



エベレスト山 8848m

が多く、彼等は機上での用足しの仕方や最低限のマナーすら守ろうとしない旅客であり、客室乗務員泣かせの筆頭路線でもある。

*ITCZ

インター・トロピカル・コンバージェンス・ゾーンとは赤道地方に発生する低圧帯のことをいい、赤道トラフともいわれる。ここでは北東貿易風と南東貿易風の収束域であるため対流活動が盛んに発生する。太陽放射最大域の移動にともなう北半球の夏には北半球にむかって北上し、南半球の夏には南半球にむ

かつて南下する。この場合不安定な熱帯気団が上昇して積乱雲の列を作る。

◎ピスターチオの国 イラン・テヘラン

元、立憲君主国（現イラン・イスラム共和国）、イランの首都テヘランは、人口650万人が住む高原都市（標高1200メートル）、中近東を飛びはじめた1970年代初頭は、パラービー王朝「代目モハマンド・レザー・シャー国王の治世下にあった。米国の支援のもとで「白色革命」を成功させ、農地改革、識字率の改善、婦人参政権等近代民主国家の基礎を築いた国王と言われる。従って市内の治安も良く、中心部より北に離れた定宿のパナックホテルは、閑静な環境にあり瀟灑な構えの館であった。

ホテルより一歩外に出ると、天空に連峰を連ねる標高5671メートルのエルブルズ山脈の景観は壮大で華麗である。越えたその向こうにキャビアのとれる蝶鮫のカスピ海（旧ソ連領）が広がっていると思うと登れるものなら山岳を登ってこの目で湖を確かめたい気持ちになった。

空は清澄、高原の春の陽光に満ちたすずかけのアーリーイエ・アスル通りは、南の市



テヘラン近郊



ダマバンド山 5671m
(エルブルズ山脈の最高峰)

中心にむかつてかなりの下り勾配で傾斜している。

走行しているタクシーはいずれもくたびれている年代ものが多い。その一台を拾って中心街にあるバザール市場へ行ってみた。降り際にチップを弾むと目付きの鋭い運転手は当然のように受取り一言もなく走り去った。

物資が集散するバザールは金銀の細工物や売る店やベルシャ絨毯を商う店、五色のガラス片を散りばめた鋳物製のランプや泥染のティーブルクロスを扱う店などが通路の両側にしがみつくように隙間無く軒を連ねている。

そのくせ商人は気位が高く、客に媚びたりおもねることはしない。かつて栄えたペルシャ帝国の末裔(?)としての自負心が

あるのかもしれない。喧騒のなかでペルシャ語、英語が飛び交う市場は買い物客でごったがえしていた。多民族国家のイランの公用語はペルシャ語であるが市場では多様な言語がつかわれていた。

帰りにタクシーを止めると同方向の客が乗り込み相乗りとなった。運転手は筆者に同意を求めることもなく走り始めた。両者から料金を請求すれば二石二鳥といったところか。

航務課のローカル・スタッフであるアシユム青年は飛行計画書を作成したり、喫緊の飛行情報を伝えてくれる、英語の堪能なテヘラン大学卒のエリートであるが、イラン人でないことを理由に差別され就職は極めて厳しいものがあつたと不満顔であつた。



深夜乗務のため空港へ向かった筆者は車の窓から薄暗い街灯の下で熱心に読書する青年を見た。その様子を彼に話すと、一部の富裕層を除いて一般にこの国の



人々は貧しく、学歴社会のため大学受験には厳しいものがあることを教えられる

た。出発ロビーでピスターチオをみやげに買った。

1973年国際石油価額急上昇（第一次石油ショック）を迎えてオイルマニーが国王の元に集まり、それをイラン工業化の好機と据えた国王は、開発計画規模の倍増修正を命じたことが国内経済を過熱化させ混乱に陥れた。78年1月、反国王デモが起こりホメイニを支持する革命派が勝利した。

79年1月、国王は国外脱出を余儀なくされた。（イラン革命）

◆南周りヨーロッパ路線

カイロ→ローマ

◎航路事情

1970年代、筆者の操縦するDC-8ジェット機はホンコン（中国）、バンコク（タイ）（2泊）、ニューデリー（インド）、テ



朝着陸した。

空港税関で、パーサー（客室乗務員）が1カートン（10箱詰め）の米国製タバコを早朝の御苦勞様代がわりにそつと係官に贈ると、簡単な検査で通関できた。深夜、テヘランを離陸し途中カイロ空港へ寄港した後の徹夜飛行で、疲れきった乗員の表情を素早く察知してのことであろう。

空港から都心へのびる一直線の街道沿いを走ると、車窓から帯のように連なる唐笠



松の緑が、早朝の穏やかな陽光を浴びて輝いているのが目にはいった。東京から6日間を要した日程の最終地ローマに無事着陸できた達成感と共に深夜連

ヘラン（イラン）（3泊）、カイロ（エジプト）を経由してローマ（map.jpg）マ市街の西辺テルニア海に面したフミチーノ（レオナルド・ダ・ビンチ国際空港）空港へ早

続飛行の緊張からの開放感が、喜びとなつて心のなかに夏雲のように広がった。30分ほどでテルミニ（ローマ終着駅）に近い定宿、ホテル・メトロポールに着いた。ホテルチェックアウトは翌日午後1時なので散策の時間はたっぷりある。今夕7時頃、会食を希望する人はロビーに集合するよう皆に伝えて散会した。

ローマ →カイロ

藍緑を一刷きしたような空の下、



ローマ・レオナルド・ダ・ビンチ国際空港を通常正午頃、滑走路25（西の方向へ）から離陸、オスティアの古代遺跡を真下に見て、眼前の渺

茫たる銀青色のティレニア海上空を左旋回しながら上昇し、再びイタリア半島に向かう。半島を横切り更に上昇、エーゲ海に浮かぶクレタ島を目指す。その後往路と同様ロードス島を経由して地中海を南下してカイロに至る。(前ページ図参照)

70年4月の或る日、クレタ島上空で紀元前2000年に栄えたクレタ文明のソノックス宮殿や多彩な陶器類に思いを巡らす暇もなくカイロ空港の気象情報が気掛かりになってきた。

砂漠空港は予期せぬ砂塵に見舞われることがあり、一寸先も見えなくなることもある。決して気が抜けない。早速気象情報をとって進入方式を決定(空港を周回して南から北に向かって着陸する有視界方式)、やがて降下を始めた。しばらくするとエジ



プト 北端 ナイル川 河口 にア レキ



サンドリアの市街(クレオパトラの遺跡があるので有名)が夕日に輝き、その彼方に巨大なピラミッドが薄霧の下に姿を見せた。

一般に砂漠の上の目視進入降下は適正な高度の判定を見誤り易い。特に霧がかかるのと進入経路が低くなりがちで高度計から目が離せない。着陸後スロット・インして乗客が降り、ホッとする間もなく、突如砂塵が舞い、文字通り一寸先が見えない状態になった。まさに間一髪のところまで難を逃れたのを覚えている。

◎ ロマンの都

ローマ

「フォロ・ロマーノ」

今回はローマを訪れた観光客が一度は行く「フォロ・ロマーノ」と「コロッセオ」を散策することにした。空は果てし無く青く目も眩むような午後の日差しが照りつけるフォロ・ロマーノは凹地に折れた石柱が雑然と散らばり、狐狸の住み家と思わせる



フォロ・ロマーノ



アウグストゥス



シーザー神殿跡地



シーザー

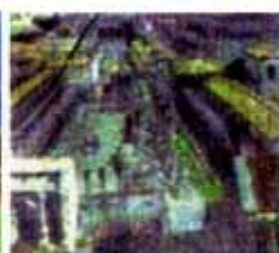
ほど荒れ果てているように見えた。しかし此処は古代ローマ時代に市民の集会(フォロはフォーラムが語源)や政治討論の場として設けられた公共広場で、その他に裁判や商業活動の拠点でもあったという。

筆者は、ほぼ20数年前、高等学校の世界史の授業の中で*ガリア戦記(シーザー著)の一部を紹介してくれた先生の「来た。見た。勝った。」と一語づつ間をおいて生徒を引きつけ、その有名な言葉を残したシーザーについて熱く語った相貌を思い浮かべていた。

筆者は復元図を前にしてシーザーの養子
アウグストゥス（初代オクタ비아ヌス皇帝、
前27年）が養父を記念して建てたジュリ
アス・シーザー神殿の跡をこの目で確認し
た。シーザーの遺体を火葬にした円形の
祭壇の中心部がそれであるといわれてい
る。そしてその左横に彼が死の直前、信じ



神殿復元図



元老院復元図



雑草に埋もれた元老院



暴君ネロの虚像

＊ガリア戦記
ローマ時代、ピレ
ネー山脈とライン川
の間のケルト人居住
地域をガリアと呼ん
だが、その地を攻め
たシーザーのガリア
遠征の経過を記した
著作。
簡潔で的確な文体
はラテン文の範とさ
れる。

きつていた部下のブルートゥス（シーザー
の野心を疑った暗殺の首謀者）に「ブル
ートゥス、お前もか」の言葉を残して死んで
いったあの惨劇のあった元老院の遺跡が
今は悲しく雑草の中に埋もれているのを目
の当たりにして、遠く過ぎ去った2000
年前の情景が身近に感じられ、死に瀕した
シーザーが蘇ってくるようだった。
「コロッセオ」
「コロッセオが在るかぎり、ローマも
存在するだろう。
コロッセオが崩れるとき、ローマも終



コロッセオ内部の復元図



コロッセオ



コロッセオ内部

わりとなろう。
ローマが終わるときは、世界の終りだ」
と言った言葉がある。

そのコロッセオはフォロ・ロマーノの直
ぐ近くにある。

4階建て57メートルの外観は文字通り
巨大で名の由来はここに暴君ネロ（母と皇
后を殺し、またローマ市の大火に際しては
その罪をキリスト教徒に負わせて迫害、後
反乱起こり自殺、……広辞苑）の巨像（コ
ロッセ）があつたからとも言われている。

政治、社会の諸問題から庶民の目をそら
せることが目的で、剣闘士や猛獣の殺し合
いなど見せ物を提供していたという。

内部に足を踏み入れると、身分、性別に
よって仕切られたという観客席があり、地
下には猛獣の檻や人物移動のための舞台装
置もあつたとか。表面を飾っていた大理石
などは恰好な建築資材となり持ち去られた
という。

いずれにしても優に5万人の観客を収容
できたコロッセオはローマ帝国のシンボル
の一つであろう。

古代

ローマ帝国滅亡後、

ゴート族

ロンゴバ

ルド族、ア

ラブ人、ノルマン人、ドイツ人、フランス

人、スペイン人がイタリアに侵入してきて

イタリア民族と融合した。



ローマの銀貨

文献によると帝国滅亡の原因は30万人に及ぶローマ軍の兵士に支給する給料が膨らみ軍費が帝国の財政を圧迫したことが直接の原因と言われている。25年の兵役義務を逃れるため脱走が絶えることがなく、兵士を引き留めるため皇帝は給料を引き上げ特別ボーナスまで支給した。そのため粗悪な銀貨が大量に発行されて大インフレが起こり、ローマ貨幣の信用は地に落ちた。

財政縮小に立ち上がった皇帝ハドリアヌスをはじめそれに続く皇帝達は財政の立て直しを図ろうとしたが贅沢に慣れた市民の猛烈な反対に会い実現できなかった。

その後ローマ帝国の財政は遂に破綻し、兵士達の給与も滞るようになった。不満が

爆発した兵士達は各地で次々と蜂起、帝国は内乱状態に陥り、混乱に乗じて前述の異民族が侵入するようになってきた。西暦395年、ローマ帝国は東と西に分裂やがて終焉を迎えた。一度獲得した特権や恩恵を手放すことをしなかったローマ帝国市民にその原因がみられる。もし、そうだとすれば我が日本も他山の石としなければならぬだろう。

帰りにテルミニ周辺のナツイオナーレ通りを歩いていると*ジブシー母娘が筆者に近づき5、6歳の娘に物乞いするように目で命じていた。娘は、垢の浮き出した小さな掌を筆者の目の前にそっと差し出した。その直後彼らの動静を伺っていた真向かいの商店の老マスターが店から飛び出し彼らを手で追い払った。一瞬の出来事であったが薄汚れた衣服を纏って街中を浪々する哀れな母娘に惻隱の気持ちを感じえなかった。

*ジブシーはインド西北部が発祥の地といわれ、6、7世紀から移動し始めて今日ではヨーロッパ諸国、西アジア、北アフリカ、アメリカに広く分布する民族で、移動生活が続ける。ジブシーは手工芸品製作、音楽などの独特な伝統を維持しているという。

長尾伴七先生の思い出

5回 狐野美代子

長尾先生のお宅に伺ったのは、卒業して二八年も経った昭和五六年の早春のことである。ずっと年賀状を差し上げていたし、先生の方からも毎年欠かさず元日に届いていた。いつか必ずお訪ねしたいと、かねがね思っていたが、やっと願いがかなったのは、二男が大阪外大に合格したために上落した際のことであった。高校時代の漢文の授業は、論語や李白、杜甫の詩を漢文で読むことに始まり、中国の歴史や文学にまでお話が深く及んで楽しかった。そのお蔭で、私は漢文や中国について視野が広がり、興味を抱いてのちのち暮らすことが出来たのである。

お電話しておいたので、先生は嵐電の妙心寺駅まで出迎えてくださった。妙心寺の山門を入り、しばらく参道を歩いていくと、お宅に着いた。玄関に入るや否や、目に入ったのは大きな額に入れて掲げてある漢詩であった。

桃之夭夭

灼灼其華

之子于歸

宜其室家

.....

『先生、この詩知っていますわ。須和源先生に三年生の時に習いました。』と思わず叫んでしまった。教わった時、何と春らしい詩であろう、若い女性の未来を願う何とよい詩だろう、と感じ入ったのである。漢文は一年、二年は長尾先生、三年になってからは須和先生であった。

お座敷に通されて茶とお菓子をいただいた。お庭に目をやると、向こうは広々としていてどこまでが先生のお宅の庭なのか分からない。境界というものがないのである。木々も植えられていない。眺めていると、先生が『ここは妙心寺の寺領なんです。お坊さん達が自給自足するための畠なんです。今は未だ作業していないけどね（三月末のこと）。このひとが（奥さんの方を見て）この場所には絶対に家が建たないから、と言ったので、住むことにしたんですよ。』とおっしゃった。『ふうん、そうでしたか。』と相づちを打ちながら、奥さんは偉いなあと感心した。始終横に座ってにこにこしておられる奥さん。内助の功のお姿がうかがわれて、ほのぼのと豊かな気持ちになった。床の間の横の違い棚には、陶器の実物大の骸骨が置かれていた。教え子

の某氏が清水焼の陶芸家で、先生のためにお作りになったものだとのこと。私は山城時代に授業で頂いたガリ版刷りの黄色く色が変わったプリント二、三枚を持参していた。一枚は中国のあらましの歴史年表である。『私はこんな細かい字を書いていたんだね。』と懐かしそうに喜んでご覧になった。

先生の著書『京の谷崎―潺湲亭訪問記―』昭和四十六年五月五日（駁々堂刊）。私にも送っていただいて拝読したが、この書は谷崎研究の主要図書になっていると申して、誇らしげにしておられた。日本文学専攻の若い女子大生が卒業論文を書くために、お宅を訪れるという。山城高校時代のエンマ帳がきちんと整理されてとってあった。取り出してきて私の成績をご覧になり、『よく勉強していましたね。』とお褒めにあずかった。すでに四人の男の子の母である私が、この場に臨んで、はるか昔の高校時代に戻ったようで嬉しかった。

私の嫁ぎ先は北海道の真宗大谷派の寺院であり、先生を訪れた前年、つまり昭和五五年が寺の開基百年の年に当たっていた。北海道は歴史が浅いので、開基百年といっても当時

としては古い方であり、境内の隅に佐渡出身の開基住職の事を記した石碑が建っていたが、漢文で書かれた碑文が周囲の木々が成長し、手入れをしないこともあって、枝が繁茂し石碑の表面をこすり、歳月と共に風化して殆どの碑文の字が読めない状態になっていた。それらを何とかして読めないものか、読んで見ようではないか、と連れあいと共に拓本をとり、漢和辞典と首っ引きで、日夜解説に励んだ。その甲斐あって、一字を残して読み上げ、全体に書かれた意味を判読出来たのであった。そのことを先生にお話して、漢文を教わったお蔭です、とお礼を述べたら、そうですか、役に立ちましたか、とおっしゃってお笑いになった。

帰りも停留所まで送って下さった。道々、このあたりに英語の酒井先生のお寺があったのですよ、と指し示されて、ご一緒に酒井先生のお尊をした。

その後も毎年、年賀状が届いたが、ある年の元旦からはパタッと来なくなった。先生もお年だから重い病気に罹られたのか、お浄土に往かれたのか、と思つて淋しい思いをしている。山城高校で教わった日々と共に、昭和五六年の早春の日にお訪ねした思い出は、私の胸に今も鮮やかで懐かしい。

過ぎ去りし記憶は大切な

10回 福田 誠

「兎に角、モノ忘れがヒドクなった。」と思うのが老人の特権でもある。出来れば日常生活に支障が出ない程度のモノ忘れていたい。

人生を振り返る年齢でもない自分では考えているが、記憶量が乏しく且つ断片的でスムーズに表現出来ない。某新聞掲載の「私の履歴書」を書くにすれば、三日分で終了である。然し、就職先での職務は記憶能力が必須であり、膨大な量の商品知識・顧客管理が求められ、新しい知識や体験の詰め込みに日々追われていたコト（内容はスッカリ忘れていたが）だけは憶えている。この会社の企業風土は「過去は善」である。従って、前へ先へと進む（思考）ことが尊ばれ、過去の実例や実績を継承する習性がない上に過去を振り返る習慣、即ち、反省する機会も少なく経営思考にも反映され、ムダや遠回りすること多かった。その意味では毎日が革新性？に富み、保守性は忌み嫌われる変化の激しい日々であったが、新しい知見や創造こそが重要な職場では、記憶に対する努力より新しいコトを吸収する方が優先され、過去の知見（記憶）は忘却するように努めていたように思う。

当時は自分の科学音痴もあって人間の記憶細胞は個人差があるものの、一定の許容量がある（半導体素子RAMをイメージしていた）とりわけ自己の記憶能力不足を認識してのことだが脳細胞の新陳代謝を早め、高めるためには、古い記憶は押し出（喪失）す必要がある。と考えていた。

長い間の職場環境は退職後の思考回路にも大きな影響を与えた。

今日でも、直近のニュースや新しい事象には強い関心を有し、理解・吸収に努めるが、相変わらず頭に蓄積されないで次から次へと忘れて行く。また、思い出を懐古する習性もなく、後輩達や家族にも過去と比較して「若い時分は……であった」とか「近頃の若い者は……である」等、自慢話はおろか体験を通しての有意義な示唆も出来ない。（憶えていない）。また、自身自身に対する（偉人の遺訓）や（座右の銘）と言った教訓めいた言葉も記憶に残らない。

一方、（……ねばならない。）とか（……出るべき。）と言う断定的な意志固めもするが、何分にも時間経過と共に忘れてゆくので極めて持続性に欠け、尻すぼみの結果に終わる。

過去の体験が生かされず、合理的な行動に反映できず、同じ失敗を繰り返すことになるが、要は、頭の悪さや脳天気な案案家なのだが、記

憶が薄れて、無くなる効用もある。一番は固定概念に縛られず、過去との連鎖（対比）から解放され、拘わり無く新しい世相・話題に馴染むことが出来る。二番目は身体能力や財力面から直ちに諦めるコトもあるが、自由な発想のもとに新しい体験を求めて飛び込むことが出来る。三番目はやや虚しい嫌いもあるが、空想を際限なく拡張することができる。

推奨できるほどのコトでもないが、自分としては親から引き継いだ貴重な財産（体質）と心得、今後も過去に拘わらず脳天気にならなうと考えている。

健康に関するラッキーな

出来事あれこれ

15回 宮本 照夫

東日本大震災で被災された皆様に対して、心からお見舞いを申し上げるとともに被災地の速やかな復旧・復興を祈念致します。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災による福島原発事故は、この稿が出る頃には約1年経過していますが、終息に向かっていくといえるのでしょうか。原発事故については「想定外」の地震、津波によるものと言われますが、「想定外」の事態が生じた時にはどのように対処するかをあらかじめ「想定」

することが、「色々な意味で危険な原発」を設置する者の責務ではないでしょうか。原子力の平和利用として推し進められてきた原子力行政の脆さを国民は大いに知らされたこととなりました。

私の山城高入学は昭和34年4月、卒業は昭和38年3月です。ですから4年間に在籍しました。これは入学する約1ヶ月前に「風邪」でダウンし、高熱のまま受験して合格したのですが、「風邪」をこじらせて入院し、入学はしたものの1年間の休学を余儀なくされたからです。

最初、町医者に「風邪」と診断され、高熱が長く続いていましたが、たまたまその町医者に代わって往診して下さったアルバイトらしい若いお医者さんが、聴診器を当てるなり「すぐ入院して下さい。風邪ではありません」と言われ、入院と相成った訳です。

その時は既に心臓にかなりのダメージを受けていたため、約1ヶ月間の入院となりました。この先生に出会えなければもう現在の生命は無かったかもしれません。ラッキーでした。医者選びは「生命」に関わることを実感した次第です。

このようなことがあり、昭和35年5月の連休明けに復学したのです。

そして中間テストがすぐ始まったのです

が、4月から5月初旬までの約1ヶ月の空白により、数学の「連立方程式」等は何のことやら分からず、ひどい点数でした。また、「体育実技」は3年間いつも見学でした。

2年生の修学旅行は体力的な面から参加せず、その間化学の尾池先生のもとで「自習」でしたが、その自習仲間の多くは留年又は落第の生徒でした。

復学した「昭和35年」はいわゆる「60年安保」の年です。当時の京大法学部の立川教授（政治学：…いわゆる革新派）と大石教授（憲法：…いわゆる保守派）が学校の校庭で「安保改定はか非か」で対談（になっていたかどうかは記憶にありません）し、生徒はそれを聞いていたという誠に贅沢な時間を過ごしました。

復学してすぐ友人が出来ました。F君です。当時彼は学級委員だったと記憶していますが、1年遅れの私の面倒をよく見てくれました。高校、大学そして社会人とずっと交流し、現在は東京に住んでいるため、年に1、2回会うくらいですが、会えばすぐ高校時代の精神状態にかえり、お互いに健康であることを喜び合っています。

また、中学時代の友人U君とも山城高校で再会しました。もちろんU君は、年齢は同じですが、学年は1年上です。両君との交友歴

はもう50年間を超えています。そのほかにも山城高時代の友人はいますが、同じ空気を吸った同窓は特に話しやすく、気楽です。

時代は飛びますが、平成15年3月末で京都府庁を退職し、同年4月から平成19年5月まで中小企業振興を目的とする社団法人に勤務していました。

その間、平成17年3月に「めまい」を感じて第二日赤病院の耳鼻科を受診したところ、「耳鼻科ではありません。脳腫瘍（良性）です。脳神経外科にまわってもらいます。」といわれ、頭は真っ白になりました。

脳神経外科では、治療として①外科手術②様子を見る③ガンマーナイフという3つの選択肢を提示されました。①は理解できましたが、②や③は理解できなかったため質問しますと、「②でまれに時間の経過で腫瘍が無くなる人があること③はガンマー線というコバルト60から出る放射線を当てて腫瘍のDNAをつぶして細胞が再生しないようにする。」とのことでした。

①は怖い感じがしますし、②は確実性に欠けます。そこで、③の治療を受けることに決めてお願いしようとしたところ、第二日赤ではその設備がなく、他の病院を紹介してくださいました。もちろん、ガンマーナイフが可

U君と行った日本海での釣り



能な腫瘍は、そのできている位置や大きさ等、一定の条件下でないとは駄目なのです。私はガンマーナイフに適応できる腫瘍でした。健康に関し、ラッキーな出来事の二つめです。

マジックをする筆者



ガンマーナイフとは、ガンマー線（放射線）を用いて、まるでナイフで脳腫瘍を切り取るかのごとく治療に至らしめる治療法のことのようです。

つまり、開頭手術をすることなく脳腫瘍の治療を可能としており、痛くもなく、QOLを維持できる治療法です。ガンマーナイフの装置の中には、201個のコバルト60が同心円状に敷き詰められており、それぞれからガンマー線が201本常時放出され、しかも、そのガンマー線は病変部にピンポイントで集中照射されるよう設計されています。したがって、正常細胞については、細く弱いガンマー線が貫通するだけであるので、副作用はほと

んどありません。脳腫瘍にどのように対応するかにつき、脳外科医は3つの選択肢を平等に提示され、（所属する病院での外科手術を強く説得されるのではなかったことはラッキーでした。これも健康に関し、ラッキーな出来事の三つ目といえるでしょう。）結果的にガンマーナイフを受けましたが、入院は2泊3日の短期間で、前述のとおり痛くもなく終了し、退院の翌日から出勤し、そして現在に至っています。

事故を起こした原発から放出される放射線は、良いことはひとつもありませんが、治療に使われる放射線は、癌治療や腫瘍治療等人間にとって大変有用です。

夏のテニス



このように私は、放射線治療により健康を回復し、健康であることのおりがたさを感じ、現在ではできるだけ好きなこと（テニス、野菜作り、海釣り、マジック等）を

第一義としながら、ADR（Alternative Dispute Agreement）の社会活動、ボランティア活動（関西チアリーディング連盟の運営等）に励んでいる今日この頃です。

ザビーネさん宅を訪問しました

19回 中村美知子

2000年にザビーネさんとの偶然の出会いがありました。

ドイツの学校で日本語の教師をしている彼女はかねてより自分の教え子と日本の学生との交流を希望していました。私が山城高校の卒業生であることが縁で、交流の実現の結果としてフィルダーベンデン校と山城高校は姉妹校となりました。それ以来、ザビーネさん来京の度毎に訪独へのご招待を受けておりました。



ベアトリス藤村さんはパリ在住で、19回卒の30代で亡くなった藤村雅樹君のご夫人です。私は卒業以来、藤村君とご家族とお付き合いがあり、藤村君没後、残された家族のベアトリスと娘のシャロット、それに今は孫のナツミも含めて、ある時期から藤村家がパリから来京の折には我

が家に滞在することと鳴りました。今春、ベアトリスと私達夫婦と三人でフランスのプロバンス及びノルマンディ地方を旅する計画を立てました。プロバンス方面の旅はス方面の旅はベアトリスにとって亡き藤村君との思い出の場所でもありました。2週間のフランスの旅の帰国途にかねてよりのお誘いに応じて10年を経た今年、訪独を果たしました。デュッセルドルフの駅でザビーネさんのお迎えを得、車で約40分。午後9時近くにお宅に到着しました。到着後、間もなく先回、先々回と山城高校訪問団の付き添いの先生であったニッセン御夫妻の訪問を受け、夜おそくまで語りました。昨年山城高校に半年間留学していたザビーネ先生の長女であるユリアは日本語がかなり堪能で日本語、英語と境のない会話がはずみました。

ザビーネさんの家は郊外の住宅街にあり、家の構造もドイツ式にがっしりしていて庭も広く、かつて子供たちが飼っていたという兎の小屋やブランコや様々な木々が塀沿いに茂っていました。この家には今まで多くの日本人が、山城高校の卒業生も含めて長期間滞在したことがあり、日本人歌手のいるかさんも何度が滞在したそうです。因みにザビーネ

さんはカラオケで「名残り雪」を上手に歌われます。彼女は高校と大学の教師であり「紫式部日記」の研究者です。夫のクラウスさんは哲学者で自宅や自宅近くの研究室で活動執筆をしています。多忙なザビーネさんの援護として家事もこなしています。私達の滞在中、近くのローマ人の遺跡があるクサンテンや歴史ある教会を案内してお世話をしてくださいました。来京経験のあるザンドラさんとその家族からの招待も受けました。ザビーネさん指導の元、大学でザンドラやナディア（山城高校訪問団のかつてのメンバー）や他のスタッフと現在日本語の教科書を作成中です。



在独最後の日の午後、先回来京のアネット副校長先生や、デニス先生の訪問を受けニッセン先生が特別なビールを振舞ってくださいたり、ドイツ風のおもてなしで太陽が沈むまで庭での饗宴が尽きませんでした。短期間のドイツでの滞在でしたが、また京都での再会を約して皆さんとお別れしました。

宮澤裕子さんの受賞祝賀会

18回 徳山 敏博

宮澤裕子さんが「産経国際書展」にて栄誉ある〈準大賞〉を受賞したのを祝して、京都駅八条口の新・都ホテルに有志十人ほどが集まり祝賀パーティーを催しました。彼女は、前にもこの同窓会誌（第三号）に「書道・水墨画に魅せられて」と題して寄稿しているのでご存知の方も多いかと思いますが、今回の賞は知る人ぞ知るメジャーなものです。小学校の五年生から習い始め、それ以来今日まで



何十年も続けて来たことが結果として評価されたいことは喜ばしいかぎりです。同期生として今

後ますますのご活躍を期待します。写真は集まったメンバー。右から5人目が宮澤さん。彼女の受賞を祝して、同期生の伊吹美智子さんにお祝いの言葉を寄稿していただきました。

先生としての宮澤裕子さん

18回 伊吹美智子

宮澤裕子さんが、本年第二八回産経国際書道展において、「漢字部門」で、産経準大賞を受賞されました。

この大きな公募展で、書の基礎である「漢字部門」での受賞は一層意義深く、心からお祝い申し上げますと共に素晴らしい快挙に感動しています。

裕子さんは、大らかで明るく、優しさに溢れ、そして凛とした本当に魅力的な女性です。そのお人柄そのままに、ご本人の作品はいつ拝見しても気持ちよく、眺めていると、生きる勇気と力が湧いてくるようで魅了されます。私は幸運にも数年前から、裕子さんに書の手ほどきをして頂いています。

同窓生の演奏会でテーブル席が隣り合わせになり、私がお習字を習いたいとお話したことがきっかけでした。

裕子さんは、私が仕事の都合で決まった日

時に教室に通うのが難しい事情を考慮してくださり、裕子さん自身が通信教育という方法で指導してくださることになりました。

ひと月に一回、私が裕子さんの書いて下さったお手本で練習した作品を送り、裕子さんがそれを添削し、次のお手本とともに返送してくださいます。

そして、年に一度、拙宅に来てくださり、直接、細やかな筆遣いなどを指導していただいています。

このような行き来が続き、早や六年目に入っています。こうして続けてこられたのは、ひとえに裕子さんの温かなご指導と励ましのお蔭です。

拙宅でのお稽古では、裕子さんがその場でお手本として筆を持ち、書いて見せてくださるのですが、流れる様な筆先には目を奪われるばかりです。

この日はお稽古が終わると通曉された書のお話を聞かせていただいたり、また先生と生徒から同窓生に戻って、在校中の思い出や、旅の経験、近況などを語り合ったりと時を忘れるほど楽しいひとときを過ごしています。

ただ私には一つの悩みがありました。それは、筆を持つのは小学校以来、この齢から始めたものの、ひと月に一度「この日はお習字

の日」と決めて自宅で一日練習をするのが精一杯の私には、書の世界は、あまりにも広く深いということです。ある日、この遅々とした歩みで途方に暮れる思いを裕子さんにお話ししました。裕子さんはニッコリとして頷き、「思い立ったときが、スタートのとき。今できることをしっかり学んで、そして楽しみましょう」と答えてくださいました。このとき、再び書に向かう気持ちを新たにいたしました。

今はこれまでの、漢字、かな、現代書等に加え、「高野切三種」のかなの臨書を指導していただいています。上達にはほど遠いのですが、この臨書には、優美な日本の伝統の世界にふれる喜びを感じます。

私は、この深遠で、美しい「書」の世界の扉を開き、導いて下さった先生、裕子さんに、心から感謝しています。

忙しい日常の中で、筆を持ち、音のない静かなときを過ごす一日は、今では私にとって大切な時間となっています。これからも、裕子さんのご指導の下で、書が続けることが出来れば、嬉しく有り難く思います。

裕子さんは、現代の日本を代表する女流書家のお一人として、益々ご活躍のことと存じます。一層のご発展を心から祈念申し上げます。

二十秒間の出来事

19回 酒井 正明

高校2年の5月だったと思う。我々山城高校19期生は南九州へ修学旅行に出かけた。京都駅を出発したのち、乗り換えの為に、大阪駅のプラットホームで鹿児島行の列車待ちをした。長いプラットホームには、我々以外に列車待ちをしているお客の姿はほとんど見当たらなかった。そのとき出くわした、忘れがたい出来事についてお話ししたい。

列車待ちをしているホームの反対側に、変わった車両が止まっているのに気が付いた。客車のようなが、車内は見たこともない内装で、しかも一般の車両にしては少し豪華だった。よく見ると乗客は一人もいない。電灯もついていない。乗客を迎え入れる様子もない。「何やこの列車?こんな見えたことないなあ・・・」と思っていた。

それから何分経ったか覚えていない。その列車はゆっくりと、しかし発車の合図がないままいきなり動き出した。「いったいどんななってんねん?」と興味津々で眺めていると、一台だけ明かりがついた車両が近づいてきた。車両の内部がはつきり見える位置まで

きたとき驚いた。直立不動の天皇陛下と皇后様が、並んでこちらを向いおられたのである。お召列車だった。

「へえ、これが天皇と皇后か!」というのが、17歳だった私の偽らざる感想だった。お二人の姿を目にしてから見えなくなるまで約20秒。その間私は手を振るでもなく、会釈をするでもなく、珍しいものでも観るように、ただただじつと眺めているだけだった。私同様お二人の存在に気づいた何人かの同級生も、同じ様な反応だったと思う。この20秒間、天皇皇后両陛下もまったくお変わりなく、同じ姿勢をとり続けておられた。わたしはお二人の変わらぬ姿勢を見て、皇族としての慣例に従いそのような姿勢をとっておられるのだろうと推察した。さらに本音を言えば「何や、ただ突っ立ってるだけやん」とも思った。

あれから46年。この間、大学に進み社会に出て、たくさんのかんことを体験し学んだ。多くのことを学び考えている内に、お茶の水女子大学名誉教授の藤原正彦先生がよく仰る、日本の「国柄」ということについても考えるようになった。日本の「国柄」について考えたとき、天皇陛下の存在や役割が重要な意味を

持っていることに気づいた。そして天皇陛下が果たされる役割に思いを巡らせたとき、高校時代に遭遇したあの20秒間の出来事が、当時とはまったく異なる感銘をもってよみがえってきたのである。

あのとき、天皇皇后両陛下は、慣例に従いただ突っ立ておられたのではなく、プラットホームにいる我々に向かって、親愛の情を示すために直立不動の姿勢をとっておられたのである。そしてこのことは、たとえば我々高校生が何の関心を示さなくとも、またお見送りの人以外、プラットホームに誰もいなくても、両陛下の姿勢は駅を離れるまで変わることがなかったであろうという推察を導く。なぜなら、天皇陛下の重要なお役目の一つは国民一人一人の幸せを祈ることであり、天皇陛下にとって最も大切なものは国民だからである。これらのことを行動で示されたのが、あのときの昭和天皇ではなかったのかと今に思うのである。

大阪駅で偶然出くわした、このたった20秒間の出来事は、高校時代の修学旅行における楽しかった数々の思い出と共に、生涯忘れ得ぬ貴重な出会いの一つとなっている。

サンデー毎日

19回 田中 博和



前まで長年出品されていたそう。日展も若手に機会を与えるためベテランの画家たちには「後進に道を譲ってほしい」と勧告を

毎日が日曜である。完全にリタイアしてから、二年と二ヶ月がたつ。周りの同輩の人達はいろいろだ。フルタイムでバリバリ引き続き仕事をしている人たちがいる。半分くらい仕事をしている人たちがいる。そして私と同じように完全な自由を勝ち取った人たちがいる。自由は実にいい。制約は何もない。私は自由を勝ち取るとともに、水彩画教室に通い出した。先生は地元の水彩画家で日展にもしばらく



の寒鰯で大賑わい！と思いきや正月三日明けのこの日の観光客は我々だけなのかと思うほど静かだ。民宿に到着しても「日帰りの宴

するそう。どこも同じだ。ここにのせていただいた絵が私の作品である。下手くそでも楽しんで描けていればそれでいいのだ。さて、毎日が日曜だから、旅行にだっていつでも行ける。今年の正月明け、一月五日から七日にかけて富山に行ってきた。ずわい蟹と寒鰯を味わうために。北陸はやっぱり雪国である。空港に到着すると周りは白い世界。街中へ向かうバスから見ると、トーンの景色は太平洋側のそれとは全く違う。JR線に乗り継いで氷見へ。富山湾の「幸」を一手に引き受けたこの町は今が旬



らして安くフラツと旅行に行ける。安い平日のゴルフを楽しむ、私たちはそんな自由な時間を満喫しております。サンデー毎日、万歳。

会の団体が入っているが、お泊まりはあなたがただけです」とのこと。こういうスタイルの民宿が多いのか、部屋、風呂、備品などほぼ旅館そのものである。貸切状態の中で夕食は豪華だった。蟹、鰯、氷見牛のそれぞれをしゃぶしゃぶで戴く。これでもかの鰯カマの塩焼き。大女将の翌朝の話「遠い所から来てくださったのだからカマを取り寄せた。こちらでは十キロ以下のものは鰯とはいわんでな」の説明のとおり都会ではお目にかかれそうにないほど、それはそれは立派な美味しいカマでした。いつでも気が向いたら、混雑を少しず



追悼

小尻利治君

19回 瀬川 司

青春のシンボル・ニキビといったのツラ構え、当時インテリ人気歌手・鈴木やすし（現・鈴木ヤスシ）似の君と、初めて出会ったのは山城高校入学式。一九六四年（昭和三十九年）四月、一年九組の教室。人なつっこい笑顔の君は、無口でノンビリ屋の僕に話しかけてくれたっけ。

つい、此の間（二〇一一年一月二六日）再会した時もそうだった。『こしかけ程度』にサッカー部に籍を置いたとたん、貴重な体験を共にしたことを、昨日のことのように君は思い出してくれましたね。それは東京オリンピック、男子サッカー5・6位決定戦。西京極競技場バックスタンド前で、君と共にボールボーイを務めた。そのルーマニアVSガーナ戦が初めて目の当たりにした外国人選手同士のゲーム。君も僕も「外国人選手は手がこつし、脚も長いなあ」身

体能力の差に驚愕したモンです。

その数週間後に君はサッカー部を退部し、勉学への道を選びました。真面目一筋、目標ビタリで京都大学工学部進学→大学院↓助手↓助教授↓国立岐阜大学助教授↓京都大学教授。京都とマイホームのある愛知・春日井市をトンボ返り。ドイツ出張も数回こなして、あと一年余で定年の65歳。「定年まで京都で頑張るよ」いつもの笑顔でボツリつぶやいた君。土木部水工木工科、防

災研究などで数々の表彰状、感謝状を受賞した君は、一度も自慢しなかった。『多発性骨髄腫』という難病と闘うこと十八年余。艱難辛苦も精魂つきて二〇一一（平成二三）年十一月二日十二時二十四分歿。葬儀（同四日）の際、順子夫人は涙こらえて「立派な人でした」と気丈にご挨拶。京都大学工学博士、君の名は小尻利治（こじり・としはる）戒名 本覚院静皓日治信士生涯、忘れません。合掌。

友よ、また会おう

いつも いつまでも 高校生時代を
懐かしみ こよなく愛した友よ
なぜ 急ぐ
なぜ 急（せ）いて逝ってしまったのか
ゆりかごから 墓場まで
団塊世代は 競争世代
研究 会議 また研究
かけがえのない友よ
若きあの日よ もう一度

いつも いつでも 家庭を 娘たちを
大事にし こよなく愛した友よ
なぜ 急ぐ
なぜ 急（せ）いて逝ってしまったのか
京都から 愛知まで
一家だんらんは 土・日つかの間
体力 気力 生命までも
捧げ尽くした友よ
若きあの日よ 夢の中

完全燃焼したのかい
友よ 友よ また会おう
若きあの日のように
夢も 希望も 語り明かそうよ

会員からのたより

三十一回 平井 邦男

又、昔の話になるが「過去を知らなくて現在未来を語るな」の諺を引用。S18年10月文科系は徴兵延期停止、東京駅は見送りの女学生・彼女が多数。下宿を出て、帰郷の車中は各学生服に日の丸のたすきがけ校歌・軍歌で充滿。S18年12月1日、京都16師団入隊。現地で敗戦、支那軍の捕虜、待遇は良好。21年6月無事海防（ハイホン）から名ベリ―提督入国の浦賀に無事帰還。慶応大学2年生に復学・異例の22年9月繰り上げ卒業した。二度とこのような時代が来ないように現在の平和でありたいものだ。さて話は変わるが、1999年で三中ラグビー部は創立75周年であった。OBの名簿をみても当時活躍した方は殆ど故人になっている。私自身よくもここまで生きることが出来、感謝していると同時に一日を大切にしている。現在は高齢で、O・B会は退会している。高齢につきこちらで筆をおく。

三十四回 東野 裕

会誌「双ヶ丘」第五号大変懐かしく特に同期の消息には感慨一入です。御関係の皆様には心から感謝申しあげます。

又一人友失いてクラス会

三十五回 小島信一郎

暑中お見舞い申しあげます。

暗いニュースが多い中、最近の朗報は何と言つてもサッカー女子W杯での「なでしこジャパン」の優勝だろう。彼女達には失礼かもしれないが、まさかと思つていたことが起こつたのだから。大きな身体の欧米の選手を相手に堂々と渡り合い、決勝戦は世界一の米国と対戦し、最後まであきらめず、はらはらは、どきどきの連続で勝つただけによけいにうれしく、テレビで観戦していて年甲斐もなく興奮した次第。大いに拍手を送りたい。

それに比べて、日本の男子はこのところどうも元気がない。戦争に敗けたのがまだ尾を引いているのか。兎に角女性の元気が日本を引っ張っているように見える。

日本男子よ、元氣を出せと言いたい。

三十五回 山田 明

暑中お見舞い申しあげます。この度は立派な会誌をご送付下され誠に有り難うございました。出稿は出来ませんがお許しください。尚僅かで御座いますが送金させて頂きました。今後もしよろしく御願い申しあげます。

三十六回 一谷 彌

思い出多い京三中の同窓会誌、懐かしく拝読、有り難う存じました。母校の更なる発展と、同窓のみなさまのご多幸をお祈り申します。私も妻と老々介護の日々ながら、何とか消日いたしております。

三十六回 武内 頼彬

会誌「双ヶ丘」の御送付有り難うございました。編集部の皆様のご苦勞に感謝しております。三十六回外山司郎氏の寄稿を読んで半田の乙川寮のことなど思い出してきます。同期の諸兄の便りで元氣づけられます。みなさんの健康を祈っております。

三十八回 大町 義治

私の現状

数年前、相馬病院にて小脳血管と顔面神経が癒着していましたのでこれを切り離し、同時に出来ていた脳腫瘍左側を切除しました。それから半年を経て右側の脳腫瘍が大きくなるのを防ぐ為、湖東病院にてコバルト60を照射して貰いました。そのリハビリの為グラウンドゴルフを始めました。此の間、三百名程プレーする機会があったので出場し、恥ずかしながら準優勝の小さな「たて」を貰いました。月一回の月例会があつて費用は五百円でプレーが出来ます。練習会も月一回あります。機会があつたら皆様も町内の体育委員に申し出がありましたら、気楽に入れますので元の体の元氣を取り戻すのにも手取り早いので、どうぞよろしかったらお入り下さる事をお薦め致します。皆々様の御健康を心より祈っております。

三十八回 折井 久彦

放射能汚染の無い社会に

万物の構成されている最小単位が原子である。地球が出来た四十六億年前は、地球

は放射能で充ち満ちていたと言われている。その充ち満ちていた放射能物質が半減期、半減期を繰り返して、四十六億年の月日を経て次第に安定して来たのが現在の地球である。従つて、地球上には、半減期を繰り返して来て、放射線を出さない物質に覆われる様になつて、始めて人間と言う生物が存在する様になつたのである。現在天然に産出されるウラン²³⁸は半減期が45億年の地球生成期時代の生き残りの元素である。従つて、原爆の原料と言われるプルトニウム²³⁹は天然には存在しない不安定で危険極まりない物質でこれが、いとも簡単に人工的に作られるのが、原子炉である。福島第一原発で起こった事故は、「メルtdown」と言う絶対に起こしてはならない事故を起こしてしまい、プルトニウムはじめ各種のアイソトープから出る放射能で、「大気汚染」「地上汚染」「海水汚染」等々で、非難区域を30キロ圏に決めてもそれ以外の所へも飛散しており、防ぎ様に困窮している。今朝の新聞ではセシウム汚染された「稲わら」を牛が食べてその肉が東京・千葉・神奈川へ出荷されたていた事がわかり農水

産省で緊急に8県に渡つて稲わらの点検を始めた。放射性汚染は、目に見えない物だけに、何処にどの様に飛散しているかが解らず、如何にしても後追い対策に終始している。菅総理の「原発に頼らない社会」とは「放射性汚染の無い社会」と言う事で、「脱原発」の判断は国を挙げて、曲げてはならない指針として守るべきである。万物の霊長が自然を創り、人間はそれに順応して生きることが大切で、物質の最小単位である原子の世界に中性子を高速でぶつける事で、天然には存在しない他の物質を創り、その世界をも制御しようとする事は、人間の横暴であり、傲慢である。将に遣つてはいけない、パンドラの箱の中に手をつた込むことになるのではないだろうか。科学の探究に水を差す気はないが、自然と共生する人間の態度こそ最も必要な事であると思う。

三十八回 佐々木成夫

京三中・山城高同窓会誌「双ヶ丘」第五号の編集に携われた方々に感謝申しあげます。内容の充実した会誌を拝読させて頂き、なつかしい動員時代の思い出にふけっ

ている昨今です。特に「防人の詩」については当時の苦しかった生活、食べ物、配属された工場の職場の事、完成した航空機「天山」「彩雲」の機姿……等。六十六年前の事が、今日、目前によりみがえって来て、私の人生の中での忘れられない歴史の一つであります。新池寮での生活をはじめ、大地震、爆撃経験、……。

前々回の「魚新」での総会に出席してなつかしい旧友との談話の一つ一つが、去りし日のなつかしい思い出として、心に残る会だったのに、それから二ヶ月、三ヶ月後に人見英二氏、川口隆也氏のご急逝の報に接し、啞然としました。あの時元氣にお話が出来た旧友が先に逝かれるなんて、あの総会が別れの会になるなんて、考えもしなかった……。ご両名の方のご冥福をお祈りいたします。

私も健康に留意の上、同窓会には出席するよう努力します。よろしく。

三十九回 赤間 義男

退職して二十余年、傘寿を越えましたが、身体の方はあちらこちらガタが来て、総合

病院の複数診療科で定期検診治療を受けております。後期高齢者の妻と二人互いに支え合い時々クラシックコンサートやミュージカルを鑑賞、楽しんでおります。

三十九回 本田 烈

思い出

本誌の編集者・高林藤樹氏と知己の間なので、ちよつと書かせて頂きます。

僕が何回目の卒業か、あやしいままに、兎も角、昭和二〇年を真ん中に挟んだ五年間を、あの校舎で過ごしたその思い出は語り尽くせません。

唯一つ、大いに誇りに思う事柄を紹介します。当時、千本北大路から円町までゆく市電は、その間を折り返し運転で走っていました。ですから、千本北大路の停留場は、朝の一とき三中の生徒、一般の客がごっちゃがえして大勢が溢れかえり、電車が来ると、それが前後の昇降口へ殺到して、押し合いへし合い、時間のみ過ぎました。

そのとき、きつと三中の誰か、生徒か先生かが前へ出て提案をし、指図したのでした。前と後ろの昇降口に、それぞれ一列に

並んで乗ろうではないかと。

さあ、それで万事オーケー、押し合って時間を無駄にする事なく、乗車出来ました。この「整列乗車」の美風は、日本中で、いや、世界中でこの千本北大路における京都三中生徒を以て嚆矢となす、のでした!!僕はそう信じて、あの「秩序」を尊んだ三中を、誇りに思っています。

四十回 小野 裕史

続・思いがけない出会い

故落合先輩の妹さんは曰く「それがねえ、兄は学徒動員先、半田の地震でなくなったんです」と言われ再びびっくり、当時私は京三中の一年生、全員下立売通りの正門前に整列して半田から十三名の遺骨が白い布に包まれて上級生に抱かれての歸校をお迎えしたのでした。そして、その後に確か講堂での慰霊祭が行われたのを記憶しています。この話を妹さんにするとあの時は父も半田迄行ったとか話しをしてくれました。

クルーズで帰国後妹さんから「田村高広の思い出」渡邊一雄著、ああ紅の血は燃える「慟哭の歌」同氏著他一冊をお借りし

て現在旧友達に回覧している現在です。
人生の出会いには不思議な「まさか」とは
このことでした。

→ 以上 三中卒

← 以下 山城卒

4回 宮崎 一雄

高林さん！ 山城四回卒の宮崎です。山城時代は軟式テニスをやっていました。同期吉田和夫君（同窓会誌5号）「空の散歩」より先日、まだ御元気に活躍中と聞きました。

現住所の横浜市金沢区で色々と地域活動をしており非常に忙しく、京都の事ははるか昔の事と忘れておりましたが、同窓会誌を見るにつけ色々と思い出して来ます。

戦後間もない昭和21年に京三中に入り学制の変更で6年間、浪人1年を補習科でと7年間過ごした学校で両校の雰囲気丸々吸って京都を去り、東京・横浜と過ごしております。友人村田成章（軟式テニスのパートナー）や有田氏（S8年卒）と同窓会東京支部を結成し、平成21年頃まで続けて来

ましたが、諸般の事情により現在は活動を中止しております。同窓会誌を続けて行くのは大変な事だと思えます。労力、資金、同窓生の協力等と色々越えなければならぬ山があると思いますが、是非頑張つて続けて下さる様にお願ひします。後継者選びも忘れずにお願ひします。

5回 角川 正美

同窓会の準備会での昼寝

十一月の同窓会の準備会という名目で、九月に京都の北で同期の女将の寺田さんが経営する『魚新』に集まるのが通例となっています。

一杯やりながら昔話に花を咲かせるのが会の目的だったから、準備会と言いながら年々その数が増え、今年も三十数名が集まりました。

数年前の同窓会の準備会での出来事です
が、前日はゴルフ、夜は友人と二杯やり、帰宅時間は遅くなっていました。翌日の昼集合の準備会に参加しました。でも一杯やりながらの友との語らいは、前日の疲れと重なり、心地よい睡魔に襲われ、会の終わりを前に、座布団を枕に寝てしまったのです。帰る時に

友人が起こそうと言ってくれたそうですが、女将の寺田さんが、「そのまま寝かしたげて」の一言で寝続けた訳です。

広い広間で目覚めたのは「よくお休みなれましたか」の女将の寺田さんの声でした。夜の十時前ですから六時間の昼寝をした訳です。広い広間は、すっかりお膳は片付けられ、照れくさいやら恥ずかしいやらで、女将へ簡単なお礼を言つて早々に退散しました。でも今では同窓会の楽しい思い出として残っています。

5回 種村 恭

入院中に学んだ事

昨年は6月に一週間、9月、11月に4日間入院生活をしました。その時にテレビで知った事ですが、アメリカで禅の道場を開設していた禅僧が話をされていた事です。人がこの世生きて行くのに次の3つの事の繰り返しをしている様に思いますとの事でした。それを纏めてみます。

◎人の生き方について

1 アイム ソーリー 済みません、ご免なさい

2 アイ ラブ ユウ 私は貴方・物を愛します

3 サンキュウ 有り難う、感謝します。
人はこの三つの言葉を繰り返して生きて来たように思います。

(1) 済みません、御免なさいの連続です。何事も全てが上手く行くものでは無く、何事も失敗の連続でその内に上手く行くものが生まれるものです。又、事に依つては先に謝つて置く事により上手く行く事も有ります。

(2) 人が人を愛する事は大切な事です。又、物に愛着を持つ事も、好きな事をする事、趣味を持つ事、人生に幅が出来て楽しく過ごせるものです。愛のない人生は味気ないものです。

(3) 有り難うと云う言葉は人の世を生きに行く上に於いて大切な言葉です。感謝をする事は大切な事です。その後感謝の心を色々な形で表す事もできます。

人は一人では生きられません。多くの人に世話になつて居ります。多くの人の助けなくしては何事も達成出来ません。人の絆を大切にできる可きと思います。

絆を繋ぐ言葉は有り難うと云う言葉で

す。昨年の漢字一文字に選ばれました「絆」は有り難うという言葉により拡がつて行きます。より良い充実した人生をすごそうではありませんか。合掌。

ドバイ首長国見聞

5回 野村 藤雄

昨年12月、ドバイ首長国へ3泊4日の慌ただしい観光をする機会があった。ドバイ首長国は今問題のホルムズ海峡に突き出た半島の西岸にあり、人口は80万人(アラブ人は12万人)である。何故ドバイへ行つたのかと問われると理由は長くなるのでご勘弁願うとして、小生の新聞テレビから得た先入観とは大分異なる事も多く、感銘を受けて帰ってきた。

断片的な書き方で申し訳ないが、先ずお堅い話から、かの国は潤沢な石油収入に依存財政と思つていたが、金融と観光の二本立ての長期戦略の結果GDPに石油の占める割合は5%との事である。国は王制で議会も無いが指導者が偉いのである。次に先年ドバイショックが報じられた。確かにマンションなど不動産バブルが弾け投資

した金持ちは損をし、建設にブレーキが掛かったが国は安泰である。またイスラム国家であるから以前から金利ゼロの銀行もある。ゼロ金利時代となつて欧米の銀行がノウハウを調べている。感心したことは犯罪が少ない。日本並みに安全で旅行者には有り難い。酒は今回は休肝的な旅行と覚悟したがホテルなどでは自由に飲めた。聞きしに勝つたのは巨大ショッピングモールである。日本のデパート五、六店とテーマパークを一つに纏めた様なもので、世界のブランドが揃っている。しかも、それが数力所ある。この背景として、無論観光の目玉の一つだが、アラブ人の生活は(とくに女性)宗教上の束縛が多いがショッピングは比較的自由で大きな楽しみになっている。目下世界最高のホテルビル(880m)がドバイに建てられた事は御存知と思うが、目の前にした時は圧巻であった。ドバイショックで、このホテル建設がストップした際、王族が、「俺の名前をつけるなら」と資金をポンと出した。それで名前をカリフタワーという。しかし世界一も長く続かない。現在サウジアラビアに1000mを越すタワーが建設中である。帰国

して浅草のスカイツリーを見ると少々さびしいが。地震国として良くがんばっているといふべきであろう。

7回 鈴木 和子

「双ヶ丘」第五号拝受しました。森先生の巻頭言、吉田・前原両氏のスポーツ賞受賞始め諸兄姉の消息、楽しみに繰り返し読ませて戴きます。

七回卒は多くの人材を輩出しており、私の一年担任矢野先生（音楽）、二年松岡先生（化学）、三年船曳先生（国語）やスワゲンこと須羽先生、アチャコこと白川先生、才色兼備の田中先生（数学）や宇野先生（英語）小倉先生（体育）等々に就いて何方かが寄稿してくださるのを待つております。お喋りばかり得意で作文はさっぱり私です。別便払込でみんなで作り支える会誌へのカンパ送らせて頂きました。

近くへお出かけの折にはどうぞお立ち寄り下さいませ。クーラーのない陋屋で、夏はお薦めできませんが、冬・秋・春は井戸水でコーヒーをお出し致します故。

10回 福田 誠

「山酔会」のメンバーです。初めて該会誌を拝読しました。会誌の定期発行活動は大変難しいと理解しています。些少ですが、送金させて頂きました。

今後とも同窓生一同コミュニティ形式の柱として継続発展させてください。宜しく願います。

12回 北中 昇

シニアサッカーと私

どんなスポーツでも素晴らしい場面と出くわし、感動を与えてくれます。特にサッカーは手が使えないスポーツで、足技の妙技とスピード・身体能力の凄さを見せてくれます。ワールドカップは世界最高峰の人達が集まり、国別の戦いの為、戦争を連想させます。又、テレビを見ていると前後半の45分がアツという間に終わってしまします。

さて、私がしていますシニアサッカーは、西日本OBサッカー連盟に加入している西日本元老チームに所属し、親睦第一・生涯現役・勝敗第二として活躍しています。シニアと言っても年齢幅が広く、次のように

分けています。

四十代（黄色パンツ）、五十代（橙パンツ）、六十代（赤パンツ）、七十代（銀パンツ）、八十代（金パンツ）、八十五代（紫パンツ）、九十代（鶴亀パンツ）となり、パンツの色で年代が解るようになっていきます。我がチームは六十代二十二名、七十代十九名、八十代六名、八十五代四名、九十代二名の合計五十三名の構成員で活躍しています。（私は今年七十代に仲間入りしました。）

活動は年間十回の大会が開催され、一回の開催で平均三試合することから、年間三十試合ぐらい行います。試合場所も関西だけではなく、地方でも行われるため、遠征費用が大変です。因みに昨年の遠征先は、岡山・長野・愛知・北海道・福井・滋賀・京都・和歌山・兵庫・大阪で行われました。その他に連盟指導の海外での国際親善試合が開催されています。（私が今まで参加した海外遠征はハワイ・オーストラリア・イギリス・トルコ・ラオス・ポルトガルの六ヶ国です）試合時間は20分ハーフでスライディング・シオルダーチャージは反則で、何人でも出入り自由（一回出た人も再度入れる）で

行われます。

介護予防の為に生ある限り続けたいと思います。

12回 田中 英樹

前略 「双ヶ丘」第五号の送付有り難うございました。かなり部厚い雑誌になり、立派になっていると実感しました。その分大変なご苦労だったと思います。非常にご苦労の多いボランティアであることに頭が下がります。さらに、無償で雑誌を配布されることで財政的に大変逼迫した状態であると想像します。

私は東北の方に義援金をしていますので、僅かになりますが、貴雑誌にカンパをさせていただきます。

今後ともよろしくお願い致します。更なるご活躍を願っております。

おかしなアナウンスメント

12回 田中 英樹

先日菅首相が原発を廃止して再生可能な自然エネルギーへ転換する意向を表明しました。確かに日本のような地震大国では原

発のリスク要因はかなり高いことは二年前に出版した拙書に記述しています。しかし、現時点では化石燃料や原発に変えて自然エネルギーを実用化するには次の記述のように少々無理であると思われます。①エネルギー変換効率が非常に低いこと、②気象変化によって安定したエネルギー出力が得にくいこと、③電力の安定供給には蓄電容量の大きな蓄電池の開発が必要な事、④高価で、重いこと等の課題が残されています。

この様な重要課題を推進するには、産官学の国家プロジェクトとして政府が率先して取り組むことが大切であり、財政的、人的支援により改良速度は飛躍的に伸びると考えられます。日本の技術者は非常に優秀であり、十分な支援があれば5年程度で太陽熱・光、風力や地熱など安価で、効率的な自然エネルギー利用装置の開発が可能であると思われます。

中国、ロシアやアメリカなどの主要国でも重要課題は国家事業として取り組んでいます。首相の発言は非常に重いだけに、一時の感情や思いつきで公表するのではなく、先ず、科学的根拠に基づいて十分に開発に配慮した事

業推進ロードマップを作成することでしょう。効率的な事業推進を図るには国はどのような形で支援するかが大切なのです。

14回 磯 洋子

平成二十二年、六十六歳を迎え、高血圧と出会い、初めて健康管理ということを実践。又大切な義姉との別れ。年を重ね、体もかつての半分しか動かず、平成二十三年三月、東北の震災、四月には足元で突然の先代和尚の遷化(主人)、めまぐるしい変化に変化にフー。

暗いようですが、実は日々、今、ここ、自分を大切に楽しく、すべてを受け入れ、自由に年を重ねております。 合掌

15回 青合 幹夫

太極拳を習い始めて七年半になります。太極拳の歴史は、中国は明代末期から清代初頭に拳法から発展したもので、陳式、楊式などいくつかの形式がありますが、私が習っているのは「楊名時の健康太極拳二十四式」という気功健康法で、気功と二十四の形を演じます。



太極拳を練習する同窓会長森先生

せんでしたが、練習が終わると何となく身体がすっきりするという実感からかと思えます。

そんな中で、一昨年、千本中立売下ル「楽庵」の経営者で、同級生の中嶋道子さんから「折角やから仲間に教えてよ」との申し出を受け、こちらは習っている身でもあり、積極的ではないまま引き受けて、毎週日曜日の朝7時半から大將軍児童公園で練習を始めて1年半です。

最初は同級生中心の4、5名だったんですが、その友達、知り合い、ご近所の方

簡単そ

うで「心・

息・動」

が一体に

なること

が肝心、

なかなか

難しいで

すが、今

まで続く

とは思

もよりま

など、だんだん増えて来て、多いときには

17、18人くらいになります。

皆さん何とか流れるようになってきまし

た。その皆さんの中に、驚くなかれ、昨年

傘寿を迎えられた森貞男先生と奥様も練習

にいられています。私にとっては、昔先生、

今生徒です。

「ちゃんと止めて、ちゃんと蹴る」が難しい。

15回 岩田 勲

15期生の京都在住の近況報告を行います。

われわれ15期生の京都在住の仲間は有志

であります。いろんなクラブやイベント

を通じて親睦を図って居ます。それらを紹

介します。

クラブは写真クラブがあります。月一回

の撮影会、例会を行い親睦と写真技術を学

んでいます。初心者、女性大歓迎です。カ

メラの機種は問いません。

ゴルフクラブは第一土曜日に打ちっ放し

で腕を磨き、年に二、三回程度コースに出

ています。初心者・女性大歓迎です。

太極拳を毎日曜朝七時三〇分から大將

軍小学校の前の児童公園で実施、森貞男先

生夫妻も参加されています。

イベントはジャズライブとカントリー

ミュージックライブが二、三ヶ月程度に一

回あります。

ジャズは「コロボックル」と言うメンバー

に同窓生の阪本（旧姓本野）さんがピアノ

演奏者で出演しています。

カントリーミュージックは「ボトムスアッ

プ」と言うメンバーで同窓生の三橋君がギ

ター演奏者で出演しています。

旅行会があります。旅行会は四年前から

年に一回実施しています。参加者は一五、

二〇人程度の参加者があり、ホテルで卓球

やカラオケまた観光等をし、親睦を計って

います。遠くは函館、仙台、東京からも参

加者があります。

最後に、毎年一月に「楽庵」にて新年会

を開催しています。参加者は二〇、三〇

人程度はあつまります。その他に、「楽庵」

に土曜日夜行けば必ずと言って良い程同窓

生や先輩、後輩の誰かが客として行つてま

す。一度顔を出して下さい。

以上の問い合わせ等は「楽庵」（〇七五一

四六三二八二〇）同窓生の中嶋（旧姓松居）

さんが経営されている飲食店へして下さい。
京三中・山城高同窓会メンバーの皆さん、
いつまでも元気でお待ちしております。

15回 清田富士夫

会誌「双ヶ丘」を送って頂きありがとうございます。
ございました。財政逼迫の事とて些少ながら
送金させて頂きました。今後とも宜しく
お願い致します。

16回 小林 正隆

前略 昨年の「森先生の傘寿を祝う会」。
大変お世話になり写真をご送付頂き有り難
うございます。私は年末来体調をくずし入
院、お礼が遅れました事、おわび申し上げます。
今後ともよろしくお願い致します。
まずは御礼まで。

18回 板橋 一成

今年の三月末に、四十一年間勤務した
京都の製薬企業を退職しました。そして四
月十日に東京にある外資系製薬企業に顧問
として勤務することになり、妻とともに
五十数年住み慣れた京都を離れました。山

手線五反田駅近くのマンション移住し、オ
フィスのある恵比寿に通っています。

東京に移ってきた頃は、毎日のように
地震があり、多少の不安はありましたが、
今では地震もなく楽しい毎日を送っていま
す。京都は四季折々に自然と伝統文化が楽
しめる素晴らしい街で、暮らして居て何の
不満はありませんでしたが、日本のビジネ
スの中心地である東京で仕事をしてみたい
と思っていました。

東京は街の中に公園や広場が多く、緑
が豊かな大都会です。コンサート、芝居、
ミュージカル、などをいつでも楽しむ事が
出来、色々な国々の食事を楽しむこともで
きます。日本の主立った企業の本社、外資
系企業の本社、官公庁、外国大使館などが
集中していますので、ビジネスをするのに
も便利なところです。

何れ京都に戻るつもりであり、いつまで
東京に暮らすのかわかりませんが、少なく
とも数年はいるつもりです。仕事だけでな
く、いろんなことを経験し、思い出に残る
晩年にしたいと思っています。

18回 伊藤 植彦

バスツアー（姫路太陽公園）

結束の固い18回卒業生は何かにつけてよ



く集ま
ります。今
回はバス
ツアーを
企画し
て姫路
の「太陽
公園」見
学と三田
「がんこ
の里」で
の会食
を楽しん
でしまし
た。参加

は38名。男女比率は少し男性軍が多いもの
の半々に近い数字。（男比率が高いと酒量
が増えるので良くないのです）今回は理想
的でした。あいにくの雨天で、あまりアウト
サイドでは楽しめなかったのですが、がんこ
「三田の里」の昼食会は三時間にも及び、京都

駅に帰ってから二次会（同窓会の理事さんが常連の「味楽座」）と続き、その後も日付が変わるまで飲んでいました。

18回 木村 文子

森先生の祝賀会に参加して

森先生の傘寿を心よりお祝い申し上げます。高林様の指揮による入場から、終始和やかに楽しい会でした。私は高校時代バスケット部であり、大学の教育実習のときの担当教諭は白浜先生でしたので、森先生に直接ご指導をいただいた事は無かったのですが、いつもにこやかな笑顔と温かい雰囲気の魅力を感じていました。「京三中・山城百周年の記念事業」の時に学年幹事のお声かけを頂いた事から、親しくお話が出来るようになりました。また、同窓会の皆様とも親交を持つようになりました。

人間が他の動物と決定的に違うのは、出産だといわれています。産前産後を含め多くの人の手を借りて、自力で歩めるようになるのです。人は生まれながらにして、他人との繋がり、コミュニケーションを必然としているのでしょうか。年齢、世代を超

えての同窓会のあつまりは、山城高校の伝統の重みや豊かさ、そして、人の和の広がり、温かさを感じ、現役に至るまでの若い世代に、ずっと繋がって行つて欲しいと願うばかりです。

森先生のお人柄にひかれて、同窓会の益々の発展を祈念します。

18回 堀場 厚

昨年の暮れと本年の元旦は大変良い思い出をさせて貰いました。京都パールサンガの後援会長を十五年務めさせて頂いているが、九年前の天皇杯制覇の時代以来の国立での決勝戦を観戦することが出来、久しぶりに後援会長として充実感をあじわわせてもらいました。

今回のチームは地元出身の生え抜きの若い選手が中心に編成されており、今までのサンガとは違う「しぶとさ」と「緻密さ」があり、将来に向けて大きな楽しみができました。

私が山城高校で培った、スポーツを愛するスピリットがこうして地元チームを応援サポートすることで生かしていけることを

大変誇りに思います。そして次の夢は京都にサッカー専用スタジアムを完成させて世界有数のチームを招待し、サンガがそこで国際試合をすることです。大きな夢に向かってさらに前進して行きます。

18回 宮澤 裕子

交流150周年に参加して

昨年は日独交流150周年の年でした。ミュンヘンのレジデント宮殿で十一月に開催された「日本の祭典」に参加して、墨と和紙で織りなす世界の書道と水墨画を揮毫してきました。



書道作品に書いた言葉を通訳の方が説明してくださって、ドイツの方々が理解して笑顔が返ってきた時の素晴らしい反響は良い交流ができていたと思います。そして、事前

に日本で書いた字をポスター・パンフレット・横断幕などに使っていただき素敵な記念になりました。水墨画は「ミュンヘンの風」と題して屏風に仲間十四人で描きました。

また、公演の入場券の売上金は日独協会のご高配により、東日本大震災で被災し、親を亡くした子供たちと伝統芸能継承の支援に寄付していただきました。

19回 中村美智子

ドイツからの留学生

ドイツのフィルダーベンデン校と山城高校との交流が始まり、二〇〇五年に初めてドイツから先生と学生たちが来京し、白梅町の Duo Inn に滞在しながら本校へ通って授業や行事に参加しました。滞在中 PTA のご協力を頂いて半日間ホームステイという企画でそれぞれの生徒が日本の家庭に招かれました。

翌年、本校から十三名の生徒が夏休みに先生方と初めてドイツを訪問し、一週間の滞在中全員が当地の各家庭に宿泊しました。

二〇〇七年にはドイツから二度目の来

京。今回は PTA のご協力の下、全員が日本の家庭での終末宿泊を経験しました。交流が深まっていく中、二〇〇八年に、本校からは予算の都合で生徒五名と先生との少人数の訪独となりました。

二〇〇九年にドイツから三度目の来京がありました。隔年の互いの訪問となっていたのですが、ドイツ側からはホームステイ受け入れの申し出があるにもかかわらず、本校からの訪独は旅費に関するサポート団体の援助が受けられず中断しました。

又、今秋には四度目のドイツからの訪日予定だったのですが、原発事故の影響で中止となりました。が、「来年は必ず行きます」とザビーネ先生から連絡がありました。

交流が始まって以来、ナディアさんを初めとして、マルセル君、ベレニケさん、ユリアさんと山城高校に留学していた人たちと本校の生徒たちとの心の交流が嬉その後個人的に留学生宅を訪問した生徒もいました。それに続くフィルダーベンデン校のマーフィン君が二〇一〇年の秋からの留学を希望していたのですが、本校での受け入れファミリーが見つからず来京を諦めたのが残念でした。

母の入院

19回 三品理一郎

父九十三歳、母が八十六歳、私も六十二歳になりました。今まで大抵健康で暮らして来ましたが、今年十月初旬、母が自宅で転倒し、右足大腿骨頸部骨折で入院手術し、只今回復期リハビリテーションに取り組んでおります。

愈々我が家も老老介護のステージになりました。

いわゆる頑張るすぎない介護のホームページなどを参考にしつつ、先生や看護師さん、理学療法士さん、事務職の皆様などのアドバイスを得、兄妹や親戚の皆さんの力も借りながら、ぼちぼちと歩んでいこうと思つて居ます。(勿論家族の力も大きいです。)

25回 石田 孝子

お世話さまです。私にとって山城高校は一生の学生生活の中で、最も楽しかった三年間でした。友人達と今でも交流があります。これからも同窓会など皆様とお会いできればと思っております。

各期・各会の報告

◆森先生傘寿祝賀会準備会（八月四日、於・楽庵）

◆双陵クラブ有志の会（八月十日、於・西陣魚新）参加者七名

◆山城陸友会幹部会（八月十一日、於・ミュンヘン）参加者五名

◆「双ヶ丘」第六号編集会議（八月十二日、於・味善）出席者：渡部・伊藤・高林。

◆森先生傘寿祝賀会準備会（八月十七日、於・楽庵）参加者：今井・鶴飼・洞本・高橋・丹保・土田・松村・高林。主な議題：①案内状の作成について②次回会議の段取りについて③準備細部の確認について④その他

◆山城10回卒、山酔会例会（八月十七日、於・味楽座）

◆森先生傘寿祝賀会準備会幹部打合せ（九月八日、於・新阪急ホテル）出席：鶴飼・洞本・高橋・丹保・土田・松村・高林。主な議題：①参加申込中間集計の報告②プログラム進行の細部打合せ③その他

◆双陵クラブ十日会例会（九月十日、於・西陣魚新）参加者七名

◆山城5回一・一一の会の準備世話人会（九月十一日、於・西陣魚新）参加者三十一名

◆山城陸友会幹部会例会（九月十五日、於・ミュンヘン）参加者六名、反省：こんなに楽しく盛り上がった会なのに、いつも思うことはこの内容がどうして文字に残せないのか。

◆洛西三中全会嵐山船遊（九月十六日、於・嵐山渡月亭）参加者十名



◆山城12回卒、「古希記念同窓会」（九月二十一日、於・ホテルグランピア）



今回の同窓会は古希の御祝も兼ねて開催された。(参加五十二名)

開会に先立ち、記念写真撮影の直前に、京三中・山城高同窓会副会長の高林藤樹様が同窓会・会誌「双ヶ丘」第五号を雨の中にも関わらずご持参いただき、皆さんに読んでほしいと参加者全員に配られた。思い掛けないサプライズに一同は感激し大喜び、大先輩の高林さんにも記念写真に加わっていただく。

世話人代表・永良系二さんの司会のもと、同窓会は開会した。来賓として松井進平先生がご出席、挨拶をいただいた。先生はご挨拶の中で「三月十一日・東日本大震災の傷跡を見る度、愛知県の豊川中学校の学徒動員として海軍工廠に一年間、駆り出されたことを思い出します。昭和二十年八月七日その工場に爆弾が投下され多くの人々が亡くなり、焼け野原の中、工場の整備労働をしたことを思い出します。」と話された。それは偶然にも先程、高林副会長がお持ちいただいた「双ヶ丘」第五号の『防人の詩』(六十四頁)に掲載されていた、京都三中の私達の先輩が、愛知県半田にある

中島飛行機半田製作所に学徒動員された記事と重なる。松井先生と三中の先輩の方々の過酷な労働とご苦労が偲ばれ、戦争の悲惨さと平和の大切さを改めて教えられた。

松井先生(八十一歳)はお元気で我々同窓生よりも若く、一組の記念写真に入られた時、「先生の方が若い」との声が聞こえた。その後、クラス毎に舞台上上がり一人ひとりが近況報告をした。古希を迎えた七十年の歳月のうち僅か三年間ではあったが、山城高校で共有した絆が甦り、懐かしさと思い出話に花が咲き、笑顔、笑顔で盛り上がった。

今回の同窓会開催日は、平日の水曜日であったが、古希を向えても現役で働く人もあり、参加者が若干なかったことと、当日は台風と重なり交通機関が大幅に遅れて参加者の集まり具合に幹事はやきもきしていた。

しかし同窓会は大いに盛り上がり楽しいひとときを過ごすことができ、校歌斉唱のあと再会を誓い合った。(吉田茂)

◆関東山城組18 (浜松以东在住の山城十八回卒業生) 第五回同窓会

18回 中尾 四郎

関東山城組18 (浜松以东在住の山城十八回卒業生) 第五回同窓会は、九月二十三日夕、新宿副都心の超高層ビル、四十四階の居酒屋で行われ、浜松市からの三谷文夫君はじめ、十二名(男五、女五)の仲間が集った。首都圏は先ごろ電力使用制限が解除



され
たば
かり
で、
副都
心の
夜景
は華
やか
さを
取り
戻し
たの
だろ

うか。

再会を喜び合うなか、福井・永平寺町から馳せ参じた宇多川隆会長は、新宿高島屋で試販中の「梅ワイン」と「ブルーベリーワイン」を差し入れてくれた。同ワインは福井県立大学・宇多川研究室が地場食材を生かして開発したもので、女性陣の品定めによる、さながら「ワイン品評会」の光景も…。われら「関東出稼ぎ組」が一堂に会すると話題はふるさと・京都に広がる。今が旬の道産子料理に箸が進むも、「京のおばんざいの薄味」が恋しくなる。宴もたけなわで、出身中学に話が及ぶと、「我が校区は御土居の内側、洛外の校区は京都にあらず…」と豊臣秀吉が行った「線引き」が今もよみがえる。これも千二百年余の歴史を持つ古都の同窓会ゆえか…。

東日本大震災から六ヶ月余、わが同窓生も三人が福島県、宮城県に住まわれ、家族・家屋への直接被害は免れたとの便りでしたが、避難生活、放射能汚染、余震の恐怖、と艱難辛苦が続いていることとご察し申し上げるとともに、一日も早い復旧・復興を願っ

てやみません。今回は熟成に時間がかかる「山ぶどうワイン」の品評会が催せる季節に元気な姿で会いましょうと、副都心を後にした。

◆森先生傘寿祝賀会準備会幹部打合せ（十月十二日、於・山城）出席＝鶴飼・洞本・丹保・高橋・伊藤・松村・高林。

◆山城陸友会（十月十九日、於・ミュンヘン）

◆テニス部OB会親睦競技会（十月二十一日）於・母校テニスコート



◆同窓会会長森貞男先生の傘寿を祝う会（十一月二〇日、於・新都ホテル）参加者：一五六名

◆森先生の傘寿を祝う会の世話人反省会（十二月五日、於・味楽座）参加：一〇名

◆第二回同窓会の思い 19回卒3年1組
二〇一一年一〇月一五日（土）ハトヤ瑞鳳閣

19回 大西 祥史

今回は同窓会の裏方の話を書いてみました。昨年の6月6日に卒業後初の3年1組の同窓会を開きました。

その時は昼間の同窓会だったので、終了後に何人かでお茶を飲みに行きました。

その時に来年もまた同窓会をやろうと決めて、幹事を選んだ、と言うよりも強引に一人の人に押し付けました。覚え易いように七夕の日に同窓会の足洗いと、下打ち合わせの為集まる事を決めて、散会しました。そして、下打ち合わせには、七人のメンバーが集り、ワイワイガヤガヤと全員が好き勝手の企画を出し合い計画を練り合いました。結果として、開催日と場所と大まかな企画が決まりました。一年後の夏の終わりに、ピヤガーデンに集る約束をして散

会となりました。

約束の約一年後はノロノロ台風の最中でした。楽しみにしていたビヤガーデンは閉店でした。そこで急遽、場所を変えて最終の打合せを行なう事にしました。

さすが名幹事さん、詳細な工程表と各自の役割分担を、事細かにきつちりと決めて



きており、誰も不服不満を言い出せずに受けるしかありませんでした。

資料集めをする者、案内状を出す者、当日に話しをする者、写真を撮る者、記念品を買ってくる者、ゲームをする者、ETC等が、決められていました。勿論、同窓会は盛会の中終わる事が出来ました。

幹事や裏方をしている者にとっては、一人でも多くの人に来てもらい楽しんでもらうのが、最大の御褒美だと思っています。

ところで、同窓会に出ていつも感じるのは、小学校の同窓会では相手を「何々ちゃん」と呼び合い、高校の同窓会では「何々さん」と呼び合い、まるでその時代にタイムスリップしたようになると感じるのは私だけでしょうか。少なからず皆さんも、感じていると思います。だからこそ同窓会は楽しいのではないのでしょうか。

この楽しみを、もっと沢山のひとと分け合いたいと思います。

一人でも多くの同級生に参加して貰えたらもっと楽しい同窓会になると思います。次の同窓会には、御褒美をもっと沢山頂

けるよう同級生の皆さん、参加してください、期待しています。

幹事や裏方の皆さん方、本当にご苦勞様でした。次回もよろしくね！

◆二〇一一年山城高19回卒2年6組クラス会

19回 田中 博和

2011年10月22日18時30分、我ら「二ロク」の仲間が昨年に引き続き集結しました。前年は一日違いの10月23日、祇園円山公園の料亭「遊心」でしたが、今年は堀川丸太町近くの料亭「繁なり」です。

「二ロク」というのは、1967年山城高校19回卒業のメンバーで、二年六組のクラスメンバーです。当時の担任、平井先生の元に結束が強く、みんなにとって今もって思い入れの強い仲間なのです。卒業後長らく集まることは無かったのですが、還暦の学年同窓会をきっかけに、集結するようになりました。

「今年も集まったメンバーは無事に生きているということだめでたいことで



す」とのK君のあいさつで始まった宴会は、それぞれの近況報告、知己のメンバーのことなど時間を忘れて話しました。京都、滋賀在住の諸氏はもとより、遠く神奈

川、埼玉県などからは参じた級友を中心に語り合いました。

遺憾にも今年9月に逝去されたS君の話には一瞬みんなシューンとなりました。

まだまだ若いつもりでいてもそれぞれ自分たちの年を思い知らされました。

締め言葉も「来年も元気で会いましょう！」とのN君の話が心にしみる夜ではありました。二次会は、幹事Nさんの計らいによって近くの店に再集結し、またまたがやがやと騒ぎ、夜も更けていきました。さらに日付が変わるのもお構いなしに三次会へと続きました。みなさん、また来年も忘れずに元気で集まろうねっ！

いつもお世話になる幹事のNさんOさん、今年もありがとうございました。

すべての同窓生の皆さん、仲間はいいものですよ。ぜひ機会を作って集まっていかがですか？

◆山城高19回卒声かけ同窓会 (二〇一

年11月5日6時半、於・桃園亭)

本年は2回目の声かけ同窓会ということ



で36名が集まりました。1時間くらい前から来ている人たちも何人かいました。昨年の参加者の数名の顔が見えず、また新たに仲間が増えていて、しかし還暦を過ぎた同胞のお互いの健康状態が懸念されるところです。この1年で何人か亡くなった事が残念ではありますが、参加した仲間は再会の

喜びと懐かしさでおおいに話がはずみました。声かけということで京都近辺の同窓生が集まっていますが、来年に向かってより大きな輪を広げていこうと考えています。級友の健勝をお祈りします。

◆第十九回二年七組のクラス会（二〇二一



年十一月一九日（土）午後六時、於・京都ホテルオークラ地下一階「桃李」、出席者十五名 第19回卒2年7組のクラス会を昨年に引き続き開催しました。



昨年は、約20年ぶりだったので、思い出すのに、2、3秒を要しましたが、今年は、すぐに思い出せるようになっていました。近況報告や学校時代の話でにぎやかに過ごしました。多くの方が、親の介護などの合間に時間を作って集まりました。外に出られる間に、会いましょうということとで来年も実施することになりました。

◆京三中山城高バスケットボール部OB・OG会（平成二十三年十一月二十六日、於・ホテルグランヴィア京都）

20回 桶谷 良

午前中、山城高で現役選手と交流戦や激励会を実施。参加者の最高齢は松村篤之介会長の八十五歳、最年少は一年生の十五歳、歳の差実に七十歳。四世代にわたり総勢百名を越え、良き伝統を感じさせ、大いに盛り上がりました。夕刻、三年毎の定期総会・懇親会。細川磐元監督や現男女監督役員・実行委員それに関東・関西から総勢四十名集まり、OBOGとの絆をしっかりと結び、後輩を育てる支援を誓い合いました。卒業

生の規模の割には参加者が少ないとの声もあり、今後の課題として提起されました。総会に先立ち別室にて、合同の役員会・実行委員会を開催し、左記の事項を検討、具体案作りを進めていくことが確認されました。一、今後のOBORG会の在り方。一、年会費の合理的徴収方法。一、若いOBまた現役との連帯方法。一、OB会・周年事業の在り方や連絡方法の改善等。

二月の役員会新年会でたたき台の検討に入ります。他の部のOBORG会からも同じ悩みが聞かれます。現役への支援とOBORG会の親睦を高めることが最大の目的であり、互いに前に向かって頑張りましょう。

◆**関東山城組18・新年会**（平成24年1月19日、於・都内品川区）

18回 中尾 四郎

首都圏在住の山城18回卒業生で構成する「関東山城組18」新年会は、相模原市に単身赴任中の初参加の山本和夫氏を迎え、さらに、東京旅行中の坂田照代さんが新幹線の乗車時刻を急遽変更しての飛び入りで、

参加者は総勢19人。「健康と年金」の話題は封印し、温かい鍋料理を囲んで談論風発・・・。時間に余裕ができる年齢にさしかかったので「年に二回くらい集まって大いに語り合おう」との提案に全員が賛同。今回の再会を約して、昭和の下町の風情が色濃い品川区戸越銀座の街を後にした。

京都スポーツの殿堂入り

釜本邦茂 氏（サッカー）

山城高校第15回卒業

野球の吉田義男氏（第4回卒）についてスポーツの殿堂入りを果たされました。謹んで栄誉を称え心からお慶びを申し上げます。



14回 土田嘉孝 個展より

寄付者芳名

自二〇二二年六月三〇日
至二〇二二年十二月一〇日

③高林藤樹・⑭竹沢慎・③折井久彦・③
天沼昭・③松村篤之介・③森重信③谷岡
豊次・③三木敏雄・③南北弘司・③高間
榮一・③上羽睦義・③平岡静哉・③武内
頼彬・③吉田邦夫・③高野浩二・⑭高橋
誠一郎・⑩田中敏雄・③佐々木成夫・③
野々村晃・③山崎昭・⑩田中英樹・⑥和
田修・③奥重行・③下山茂・③浜村保・
③高須寿一・④並河清・③石田太造・③
鈴木照代・⑦鈴木和子・③河本充・③岩
田勲・②道家康之助・⑤荒川太一・③東
野裕・③山本晃・③西山忠士・③大塚樹・
③坂本悦子・③井本俊二・③片岡光泰・
⑤田崎央・⑤狐野美代子・③山口清三・
③梅垣秀一・③瀧川明子・③坂根寛・④二
村昭雄・③三橋秀樹・②吉田茂・③石田
章子・⑤渡邊昌子・③宇田川隆・③岡田新・
③山田明・②村山良人・③西村耕作・④
小野裕史・③鶴飼忠男・②秋山拓一・③
山内利夫・③西野孝一・②人羅賢司・③
木村文子・⑤前原英彦・⑤宇治田玲子・
③上原七子・④水谷公治・③小畑修一・

③伊藤禎彦・④竹澤慎・③藤根博子・③
高橋操夫・③佐々内壽枝・⑤杉田博明・
③北井美喜雄・⑥国定正司・⑦国枝治郎・
⑤浦谷照雄・⑤土田嘉孝・⑩出納正彬・
③出納貴子・③寺田壽子・③山田安造・
③一谷彊・③久保田祐弘・⑦松尾稔・③
赤間義男・③関矢昭・③山村泰彦・③江
龍昂・②小寺啓介・③岡浩三・③村端豊資・
③佐藤嶺子・③浦川博正・③斎藤昭・③
山口延男・③板橋一成・③橋本春子・③
津田雅也・③坂田基禎・③石田元一・③
原田正男・③一海知義・③大前進・真理
子・③須田美智子・③田中博和・③榊原胖夫・③
梅原健一・⑤木村英生・③中村純三・③篠崎徹
③英良系二・③青木洋・③岡本正彦・③山本晴
海・③西山剛史・④水川隆夫・③高下みどり・
③宮本照夫・③小島裕治・③山本弘・③北中昇・
③中嶋道子・③辛島啓珠・③嘉住佳己・③坂井芳
治・③横田友治・③山田恵子・③大河原康夫・③
都筑鳩枝・③田村淳夫・③石田孝子・③近藤容
子・③岸啓子・③八木福太郎・③酒井正明・③吉
信厚子・③栗津孝司・③小川房子・③三品理一
郎・③清田富士夫・④宮崎一雄・⑤大橋吉子・③
長谷川律雄・③弓削弘子・③吉岡美智子・③杉
本和子・③岡部隆夫・③久松右治・③平松圭子・

③土井克巳・③向山進・③中塚富久子・③堀恵
③小島信一郎・③上羽睦義・③秋山邦一・
③坂田瞭一・③伊吹美智子・③西村圭子・③福
田誠・③平岡正己・③澤田拓士・③清水英紀・③
吉本貞子・③岩崎進

計 報

③小尻 利治 平成二十三年十一月二日
③竹澤 佳郎 平成二十三年十二月十日
③宮永豊三郎 平成十九年四月六日

訂正とおわび

◆本誌第五号寄付者芳名欄に脱落がありました。
③小島信一郎様・③上羽睦義様・③
秋山邦一様・③坂田瞭一様です。謹んでお
詫び申しあげ追加訂正致します。
◆本誌第五号三十八頁の中段11回杉浦和重
氏は杉村和重氏の誤りです。謹んでお詫び
申しあげ「杉村和重氏」に訂正致します。

「婚活フォーラム・きずなの会」のご紹介

山城高校 14 回 高橋 誠一郎

仕事中心の生活から、余生を楽しむ生活へと変わってきた時に山城高校の同窓会があり、同級生から「婚活の手助けをしないか」と声を掛けられました。

同級生の中には息子が 30 才を過ぎても独身でいるとか、娘が一度、結婚したが離婚して戻っているとか、親として心配の種を抱えていました。

私達の若いころは生保のおばさんが見合い話を持ってきてくれたり、仲人好きな人が仲介をしてくれたりしましたが、今はそういう人がめっきり少なくなりました。同窓生の先輩にはお見合いを仲介して 25 組も成婚させ、1 組の離婚もないという方もおられます。

そこで、若者の婚活を手助けするために、山城高校 14 回の同級生数人を集め、婚活の具体策について話し合いをし、今年（平成 23 年）4 月に〈婚活フォーラム・きずなの会〉を立ち上げました。

この会は親や友人が結婚希望者と共に会員登録をしてもらい、交流会の時に登録者名簿を配布し、良い伴侶を見つけてもらおうというものです。この名簿には本人の情報や希望が載っていますが、個人を特定する情報は載せていません。登録は無料です。

今までに会員（親や友人）の交流会や本人（結婚希望者）を対象にした居酒屋パーティーを開催していますが、まだ、一年が経過していないことや会員数が少ないため成婚に至っていません。12 月現在の登録者数は 38 名です。

皆様の身近に結婚希望者がおられましたら、この機会に登録をしていただき、良き伴侶をみつけていただければとご案内させていただきます。

ご一報いただければご案内を郵送させていただきます。

世話人は山城高校 14 回の

豊田 信司、坪井 信孝、菊田 俱光、北浦 浩子、高橋誠一郎 の五名と
古賀 孝道（同年代の友人）の計 6 名です。

ご連絡は 高橋宛（携帯：090-9045-7841）にお願いします。

〈婚活フォーラム〉きずなの会

ホームページ http://www.geocities.jp/kf_kizunanokai

メールアドレス kf_kizujanokai@yahoo.co.jp

京都新聞社の御好意により、平成八年六月に新聞紙上に連載されました「半田動員の記録」を掲載させていただきます。

『防人の詩』 うた さきもり

(八)

京都三中の学徒たちの動員先となった愛知県半田市の中島飛行機半田製作所のルポの記事は、翌日の新聞にも引き続いて掲載されていた。それは、生産現場の工場内の学徒立ちの動きとは別に、彼らの集団生活する合宿寮の模様を伝えるものであった。記事は・・・「工場から畑の一本道を北上して半里（二キロ）ばかり。ゆるやかな高地を登ると、その眼前に陽（ひ）をいっばいに浴びた、木の香も新しい新池学徒合宿寮に着く。左手の医務室、食堂、風呂場を通ると整然と並んだ数棟の合宿寮が、南窓に陽を浴びて建っている」

「室内に入ると、まず玄関の正面に学校

の校訓が大書されている。案内された部屋は清らかな日光を受け、ガラス窓を通してみるはるか眼下には、畑の起伏の間に点々と住居がみえる。さらに、みはるかす彼方には銀波輝く三河湾が広々と望まれ、付近一帯は工場の寄宿舍といった感じでなく、まったく学校寮に入ったようだ」

「東西に並んだ寮棟は一部屋十五畳で、各十人の学徒が朝5時半の起床から夜9時半の就寝まで、まったく規則正しい軍隊式の生活を続けている。そこでは、学徒たちが父兄とも親しむ先生方の指導のもとに毎日がおくられ、特に体調の維持には工場寮の十一人の医師、看護員が診断、レントゲン、ツベルクリン検査の結果などに十分の注意を払う日々ともなっている」

「そして、これらの結果は健康度を甲、乙、丙の三つに分けて、最も悪い者は帰郷療養の措置がとられ、工場での作業につくのが思わしくない程度の者は、要注意者として就業させていない。そして、これら乙程度の者たちは寮から少しだけ離れた農園に出て、終日、畑仕事や牛の世話をすることに

なる」

「そこでは十分な日光浴とともに休養の一日を過ごす、食事でも新鮮な野菜や牛乳などで、もっぱら体力の回復に当たる。このため大部分の者が1ヶ月間もすれば体重も増え、立派な体格となって再び、生産陣に参加するとのことであった」

「同時に寮の食事も、厳しい作業に腹を減らした学徒たちには十分な量を・・・と寮長以下の苦心するところである。このため毎食の米飯に蛋白質、ビタミン含有量の多い副食物をとりそろえ、二千五百カロリーが確保されている、と聞いた。また、夕食後には疲労回復の目的もあってビタミン剤を服用する学徒もあり、その健康状態は良好だ、という」

「やがて夕陽が没するころ、寮棟の正面の方にたくましい足音が聞かれる。学徒たちの帰寮だ。寮内はたちまち活気に満ちあふれる。『ただいまッ』『おかえり』のあいさつが声高に続く。留守番役の先生たちが各宿舎の玄関で学徒たちを迎え、帰寮した学徒たちはそれぞれが自室へ向かう。そし

て浴場へ行く者や、昼間の作業の状況を語り合う者など若々しい集団の精気がみなぎる」

「そして、夕食の時間だ。どんぶりいっぱい飯も、労働後の味とかみしめて、箸を動かす学徒たち。やがて食事が終わると各自、一礼して各部屋に帰り、きょう一日のことを便りにする者、隣室の友人と作業のことで論じ合う者など、高等学校の寮生活を感じさせるひとときである」

「八時四十分。点呼。廊下に出てくる学徒たち。並んだ学徒の一人、ひとりに声をかける先生たち。その後に、さらに九時半の消灯までは自由時間。自室にひきとり、服のつくろいをする学徒の手並みも慣れたものだ。そこには一人、ひとりの学徒が共同生活のなかに団結心をもって日々をおくる決戦下の寮の姿があった」

(九)

愛知県半田市の中島飛行機半田工場に集団動員されていた京都三中の勤労学徒たちの毎日は、新聞の「現地視察記」によると「聖

戦完遂の決意のもと連日、飛行機の生産に挺身する状況」と報じられていた。

あわせて「学徒たちのなかには現地で体重の増加する者もみられた」との大きな見出しもみられたが、これらの報道が軍による戦時下の厳しい報道管制のもとに報じられていることを考えると、戦意高揚を目指す軍の意向を色濃く反映した記事であることは言うまでもなかった。この中島飛行機半田工場への動員学徒の一人であった同中学三年生、辻宏君（十五歳）は「だれもが懸命に頑張っていたことは事実であったが、こちらにきてから『体重が増えた』という記事には、いささか首をかしげなくなる筆の走りの内容であった」という。

そして・・・「半田での生活に少し慣れてくると、やたらに腹が減ってきた。食堂のカウンターではちよつとでも盛のでかい飯にありつこうと、だれもが目を光らせていた。目の前に五つも六つも、次々とどんぶりが並ぶ。『はよう取らんかッ。後がつかえるぞッ』と飯盛りのおっさんがどなり声を出す。と、電光石火の早業で、ほんの

わずかだが盛りりの多いと思われるどんぶりをひっさらう」

「この食堂では出勤カード式の食券が使われていた。だれの発案か知らないが、カードの上に蠟を塗って『済』のはんこを上手にはがし、二度食いする者が始まった。周りで成功の話を聞くなかで、自分もつられて蠟塗りの二度食いを試みた」

「だが、見事に失敗であった。職員室に呼ばれた。『君たちがこんなことを仕出かしてくれると困るんだなあ』と苦りきった顔であった。そして『初めてと違うだろう。何回もたつとるやろッ』と、それまでの同僚の罪まで全部、押し付けられそうになった」

「自分は、あわてて否定した。そのときの発覚者は自分のほかにいまひとり、クラス内でも実直温厚で知られた級友もいた。先生は、やおら立ちあがると『約束事だからッ』

と一発、鉄拳が飛んできた。実直温厚の君も同じく鉄拳を見舞われていた。それから間なしに、このカード式は廃止された」。

「そして、これに代わって次は一回ごとの食券制となってきた。ところが、すぐに知恵者が現れて在籍人員を増水増しすることで、食券の枚数を増やす工作が行われた。そこで浮いた食券は順番を決めてみんなに配給されることになった。この食券配給役の級友は大いに苦勞しているらしかった」

「職場の仕事にも次第に慣れてくると、それぞれの持ち場をまかされたり、同時に部品の調達のため他の工場へ出張する機会も与えられた。ということは諸先生の監視付きで寮と工場間の狭い範囲しか動けなかった自分たちに、半田の町なかを自由に歩き回る機会の与えられることを意味していた。表向きの公用を早々に済ませると、胸の赤マークの『学』章をはずすや、一目散に雑炊屋へかけ込むのだった」

「京都でも雑炊屋はあったが、そこでの配給食は中身の薄い雑炊であった。それに比べて半田の雑炊は立派であった。京都での雑炊は箸も立たない薄い汁のようなものだったが、半田の雑炊は箸がたつ中身の濃いものだった。大本營の発表で、ときとし

て、わが方が戦果をあげた日などには、さらに生産意欲を高めるべく金一封が職場で支給された。

そのほとんどは雑炊代に消えて行くのだった。

(十)

京都三中の学徒たちが、勤勞動員先の愛知県半田市の中島飛行機半田製作所でのような寮生活をおくっているのとか、どの模様は同中学三年生、辻宏君（十五歳）の小話に語られていたが、同時に作業現場の工場内の状況をめぐって辻君は――

「自分の配属を命じられた現場の班長は、配属の初日にあいさつに行くと、何の指示も与えてくれなかった・しかたがないので同じ班に配属の級友二人と作業の模様を見学することにした。だが、次の日も同じであった。そして、このような状態が毎日続くのにつかりした。そのうちに眠気が襲ってくるときなど、からっぽの機の胴体にもぐり込んで昼寝を決め込むこともしばしばだった」

「だが、そのうちに持ち場も決まり、自分の持ち場は高速偵察機『彩雲』の操縦席の取り付けであった。この班内には自分たち学徒に親切にしてくれる年配の工員さんがおり、彼は脚格納部と補助タンクの取り付けをやっていたが、自分たちには作業の手が空くと、彼のところに手伝いに行くことも度々であった」

「そんなある日のこと。彼から借りていた新品のハンマーを割ってしまった。率直にわびればゆるしてもらえさるだろう、とわびの言葉を口にした。ところが、彼は顔を真っ赤にして怒り出した。そして『ほか野郎ッ。道具を何だと思ってるッ』と、いきなり鉄拳が飛んできた」「これには、こちらがびつくりした。どうして、こんなに怒るのか。

その理由がよく分からなかった。だが、後日になって事情が分かった。この班では組長以下、北関東地方の工員の人が多く、だれもが徒弟職人の面影を濃く残した集団であった。そんな彼らにとって、道具は職人の命でもあった。この年配の工員の方は

親密になったればこそ、この大切な一事を体で自分たちに教えようとしたのだった」

「そんな職場で、自分たちも作業に慣れてくる一方、戦局は日に日に厳しさを増してくるのを感じた。このため工場内でも突貫態勢が下命され、残業が組まれることになった。われわれ学徒も急にいそがしくなってきた。だが、学校側は原則として学徒の残業は認めない方針のようであった。そのとき、残業者にはパンと牛乳が特配される、との情報が飛び込んできた。この情報はすきつ腹の自分たちには十分な魅力秘めていた。自分は残業を申し出た。その結果は『できるだけ早く切り上げること』を条件にゆるされた。自分は支給されるパンと牛乳に満足しては、暗い夜道を帰寮する日々となった」「すきつ腹といえ、職場にはどの組でも手製の大きないろりを作っていた。

これは冬季には暖をとることもできるし、休憩時間には灰のなかに芋を埋めてはホカホカの焼き芋づくりもみられた。ある日のことだった。自分は休憩時間が過ぎて

作業開始の合図があったのに、いりり端にすわっていた」「それは、自分の芋の埋め方が悪かったのか、なかなか焼けないので未練がましく待っていたのだった。周囲にはだれもないこととて夢中で灰をかき回していた。その自分の目の前に一本のふとい煙の棒が現れた。ハツと思って顔を上げると、巡回の下士官が突っ立ったまま自分を下ろして見下ろしていた。瞬間、自分の背中に冷たいものが走った」「彼の手にした精神注入棒は、さぼっている者を見つけ出すと情け容赦なくたたきのめし、半死半生で運び出される工員の姿を目にしていた。自分はいつの間にか直立不動の姿勢をとっていた。そして、下士官を正面から凝視していた。と、下士官は『はやく仕事につけ』と、ひとこと。自分の首筋にはあらためて冷たいものが流れていた」

編集後記

◆昔は編集前記や編集後記も書き、更に編集後記も書いた。若かったから意気軒昂であった。しかし、老いて近頃考えるのは、編集部の一歩きよりも多くの会員からの原稿こそ待たれるのではないかということである。たとえ短いものでも歓迎しますので、会員諸氏におかれては、ぜひ投稿されるよう懇願します。

◆今回も編集長一人にほとんどの編集業務を任せてしまいました。名前だけの編集次長は申し訳なさでいっばい。せめて協力者であと何人集められたらもつともつと編集長を楽にさせてあげられるのにと思いますが・・・どなたかお手伝いいただける方はいらっしゃらないでしょうか？

京三中山城高同窓会会誌

「双ヶ丘」第六号（非売品）

二〇一二年三月一日 発行

発行人	会長	森 貞男
編集長	5 回	高林 藤樹
次 長	18 回	伊藤 禎彦
会 計	26 回	松村多美男